

Double Band GPS Transceiver

144MHz / 430MHz FM TRANSCEIVER

C5750

取扱説明書

お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

お使いになる前に、この説明書をよくお読みください。

お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。

本機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。

また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3 ページより

ご使用前の準備

11 ページより

使いかたの基本を知ろう

19 ページより

もっと自由にあつかうために

25 ページより

メモリー機能を使うには

31 ページより

スキャン機能を使うには

37 ページより

レピータを使うには

41 ページより

こんな使いかたもできます

45 ページより

グループで使うには

53 ページより

GPS機能を使うには

65 ページより

オプションを使って

67 ページより

ご参考に

ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は、感電注意が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。
左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。



警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 濡れた手で電池や電源コネクタを抜き差ししないでください。感電の原因となる場合があります。
- 当社の電源ケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 自動車等の運転中はこの機器を操作しないでください。交通事故の原因となります。
- 病院内や航空機内など、使用が禁止された場所では、この機器の電源を切ってください。医療機器や電子機器の動作に支障をきたす恐れがあります。



警告

- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落したり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。



- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コネクタを抜いてください。また、屋外にアンテナが設置されているときは、アンテナコネクタをはずしてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 送信中にアンテナに触れないでください。やけど・けがの原因になります。
- 水につけないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 機器で指定されていないヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



注意

- お手入れの際は安全のため電源コネクターを抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源コネクターを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの皮覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コネクターを抜くときは、必ずコネクターを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けがの原因となることがあります。



■ 本書の読みかた

- 本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。また、UHFバンドの430MHz帯を主体に説明しています。

- 本書では、次の記号を使っています。

P 参照するページを示します。

F ファンクションキーを押した後の操作を表します。

■ 梱包品をご確認ください

また、保証書にはお買い上げになった販売店、日付が記入されていることをご確認ください。

1. 取扱説明書	1	10. モービルブラケット止めビス	一式
2. 保証書	1	ボルト (M5 mm × 20mm)	2
3. 営業所一覧	1	ナット (M5 mm)	2
4. ブロックダイヤグラム	1	ワッシャー (M5 mm)	4
5. 愛用者カード	1	スプリングワッシャー (M5 mm)	2
6. マイクロホン (CMP575)	1	タッピングビス (M5 mm × 15mm)	2
7. 無線機本体	1	11. マイクハンガー	1
8. 電源ケーブル	1	12. キャリングハンドル	1
9. 本体固定ブラケット	1	13. 予備ヒューズ 4A	1

もくじ

ご使用前の準備	3	メモリー機能を使うには	25
使用上のご注意	4	メモリー機能について	26
無線機の設置と接続	5	メモリーするには	26
ブラケットを取り付けるには	5	メモリーを呼び出すには	27
無線機を取り付けるには	5	メモリーを変更するには	27
電源ケーブルを接続するには	6	メモリーを消すには	28
マイクロホンに接続するには	7	メモリーの内容を表示するには(メモリータグ)	28
ハンドルを取り外すには	7	メモリー周波数に各種設定を書き込むには	28
外部スピーカーに接続するには	7	ハイパーメモリー(HM)機能について	29
アンテナを取り付けるには	8	ハイパーメモリーを呼び出すには	29
電波を発射する前に	9	ハイパーメモリーを変更するには	30
電波障害(TVI,BCI)対策フローチャート	9		
点検してください	10		
		スキャン機能を使うには	31
使いかたの基本を知ろう	11	スキャン機能について	32
電源を入れるには	12	スキャンのタイプを変更するには	33
スケルチを調整するには	12	1 MHz内でスキャンするには	
音量を調整するには	12	(1 MHzスキャン)	33
バンドを選択するには	13	スキャンする速さを変えるには	33
VFO状態にするには	13	周波数帯の全域をスキャンするには	
受信するには	14	(オールスキャン)	33
送信するには	14	指定した範囲をスキャンするには	
ファンクションモードにするには	15	(プログラムスキャン)	34
各種の設定を最初の状態に戻すには(リセットモード)	15	メモリー周波数をスキャンするには	
各部の名称と動作	16	(メモリースキャン)	35
		メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには	
		(ブロックメモリースキャン)	35
		指定したメモリー周波数をスキャンするには	
		(メモリースキャンメモリー)	36
		トーン周波数/DCSコードをスキャンするには	
		(トーンスケルチスキャン/DCSスキャン)	36
もっと自由にあつかうために	19		
コール周波数(呼出周波数)を使うには	20	レピータを使うには	37
コール周波数を変えるには	20	レピータ運用について	38
コール周波数に各種設定を書き込むには	21	オートレピータモードを解除するには	38
セットモードを使うには	21	レピータを使うには(オートレピータモード)	38
音声が入切れるときは(スケルチオフ)	21	手動でレピータモードを設定するには	38
セットモードの機能を簡単に切り換えるには(マイキー)	22	レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには	
間違っ操作するのを防ぐには(キーロック)	22	(リバース)	39
周波数を1 MHzステップで変えるには	23	レピータ運用のオフセット周波数、	
周波数ステップを変えるには	23	トーン周波数を変えるには	39
送信出力を変えるには	24	スプリットモードを設定するには	40

こんな使いかたもできます 41

バンドの区分を無くすには	42
一定以上の強い信号だけを受信したいとき (RFスケルチ)	42
間違って送信しないためには (PTTロック)	42
表示部の明るさを変えるには	42
ピープ音の大きさを変えるには	43
電源を自動的に切るには (オートパワーオフ)	43
送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)	43
電源電圧を表示するには	43
S/TXメータをモジュレーションメータにするには	44
バンドスコープ機能を使うには	44

グループで使うには 45

DTMFを使って	46
自分の個別コードを設定するには	46
話したい相手のコードを設定するには	47
ページングで呼び出すには	47
グループコードを設定するには	47
ページングで待ち受けするには	48
コードスケルチ・ページングが出るまでの時間を遅らせるには	48
コードスケルチを使うには	48
DTMFを使うには	49
DTMFコードをメモリーするには	49
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	49
メモリーしたDTMFコードを書き換えるには	50
メモリーしたDTMFコードを送出するには	50
トーンスケルチ・DCSを使って	51
トーンスケルチ・DCSを使うには	51
トーン周波数を変えるには	51
DCSコードを変えるには	52

GPS機能を使うには 53

GPSレシーバーを使って	54
相手の人に情報を送るには (ビーコン)	54
ビーコンの送出周期を変えるには	54
GPSメニューについて	55
自局情報表示について	55
自局の速度および絶対進行方向を表示するには	56
自局のグリッドスクエアロケータおよび高度を表示するには	56

自局の情報源を選択するには	56
自局の緯度と経度を表示するには	56
衛星からの信号をメモリーするには (位置メモリー)	57
緯度・経度のデータを修正するには	57
相手局情報表示について	58
相手局の距離および方向を表示するには	58
相手局の緯度と経度を表示するには	58
相手局のグリッドスクエアロケータおよび速度を表示するには	59
相手局からの信号を位置メモリーにメモリーするには	59
相手局の情報源を選択するには	59
位置メモリーのタグを変更するには (位置メモリータグ編集)	60
近距離警報を設定するには	60
メッセージ・コールサイン表示について	61
相手局のメッセージを表示するには	61
相手局のコールサインを表示するには	61
自局のメッセージを表示するには	62
自局のメッセージ・コールサインを入力・編集するには	62
自局のコールサインを表示するには	62
時刻を表示するには	63
GPSをグループで使うには	63
パソコンと接続するには	64
コマンドの説明	64
GPS端子・SER (シリアル) 端子について	64

オプションを使って 65

リモコンマイクCMP575Dを使って (ダイレクト入力)	66
パワーブースターCPB510/CPB510Dを使って	66
スピーカーを切り換えるには	66

ご参考に 67

故障とお考えになるまでに	68
セットモード機能の一覧	69
ファンクションモードのタグ一覧	70
欧文モールス信号の一覧	70
オプションの紹介	71
アフターサービスについて	71
定 格	72
申請書の書きかた	73
送信機系統図	74
申請書の書き方 (パワーブースターCPB510/Dを使うとき)	75
さくいん	77

ご使用前の準備

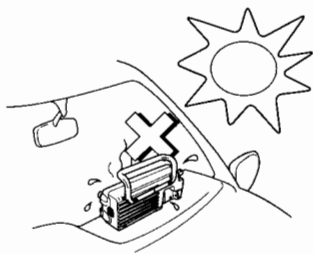
使用上のご注意	4
無線機の設置と接続	5
ブラケットを取り付けるには	5
無線機を取り付けるには	5
電源ケーブルを接続するには	6
マイクロホンを接続するには	7
ハンドルを取り外すには	7
外部スピーカーを接続するには	7
アンテナを取り付けるには	8
電波を発射する前に	9
電波障害（TVI,BCI）対策フローチャート	9
点検してください	10

使用上のご注意

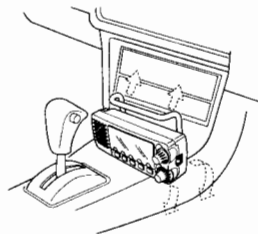
■ 設置場所について

本機の設置場所として、次の点に注意してください。

- 高温、多湿、ホコリの多い場所は避けてください。
特に、日光が直接あたる場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。

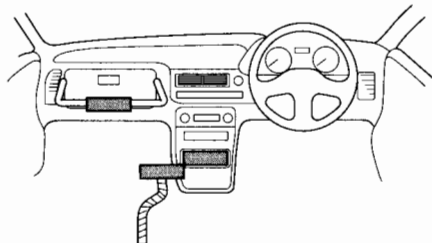


- 放熱部の冷却効果を下げないため、背面および底面には充分スペースをとってください。長時間使用すると、無線機本体が温かくなりますが、使用上支障はありません。

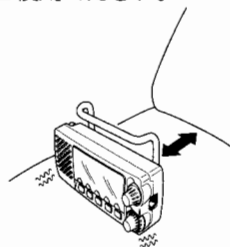


■ 取り付け場所について

- 本機は、液晶テレビ用汎用アタッチメントが使用できます。これらを使いやすい位置に取り付けて、ご使用になれます。



- 本機の背面が直接自動車のシートに触れないようにしてください。また、なるべく振動を受けない場所や状態でご使用ください。

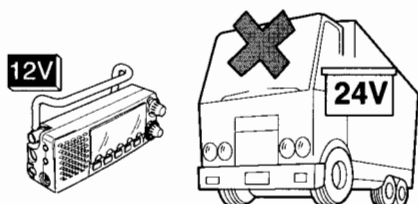


ご注意 次のような場所への取り付けは避けてください。

- ヒーターやクーラーの吹き出し口近く
- 日光が直接あたる場所
- 振動の多い場所
- 自動車本体の電子回路の近く
- 安全運転に支障が出る場所

■ 電源について

- 本機は直流（DC）12V仕様車用です。大型車など24V系のバッテリーには絶対に接続しないでください。火災・故障の原因となります。

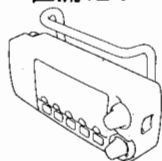


- 交流（AC）100Vには絶対に接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

交流100V



直流12V



無線機の設置と接続

ブラケットはしっかり固定される場所を選んで取り付けてください。また、付属のボルト、ビスを使用して固定してください。

ブラケットを取り付けるには

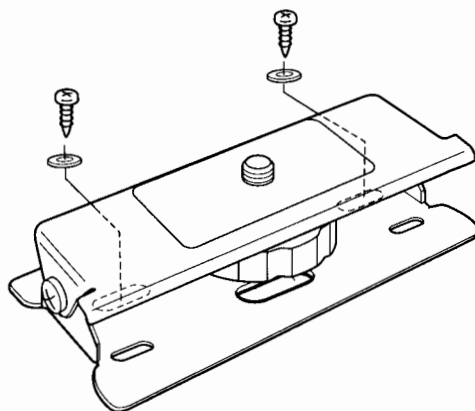
- 1 M5 mmのタッピングビスを使用するときは、 $\phi 4.0 \sim \phi 4.3 \text{ mm}$ の穴を開ける

M5 mmの六角ボルトを使用するときは、 $\phi 5.2 \sim \phi 5.5 \text{ mm}$ の穴を開ける

- 2 M5 mmのタッピングビスを使用するときは、タッピングビスに平ワッシャーを通し、ネジ込む

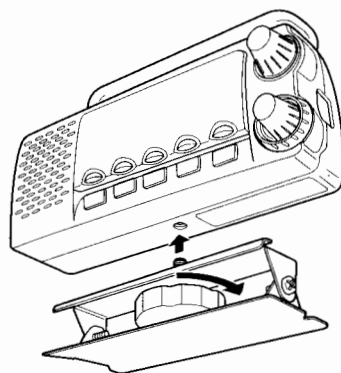
M5 mmの六角ボルトを使用するときは、六角ボルトに平ワッシャーを通す

次に、内装側より平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを通して固定する

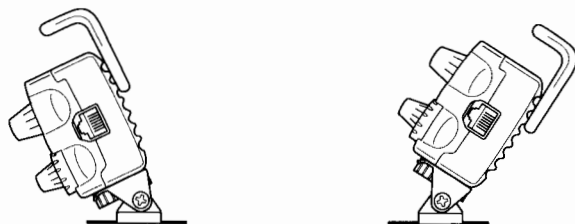


無線機を取り付けるには

- 1 本機をブラケットに乗せ、ブラケットの固定ネジを回し、しっかりと本機とブラケットを固定する



- 2 ブラケットの左右のビスをゆるめ、本機を使いやすい角度にして、再度ビスをしめる

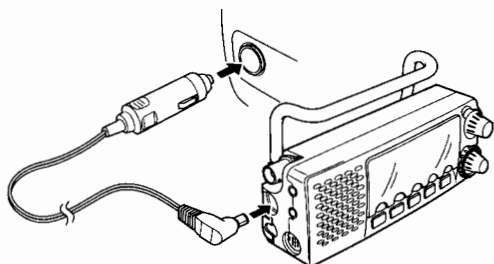


電源ケーブルを接続するには

■ 車載の場合

本機への電源供給は、自動車のシガーライターソケットより行います。

自動車のシガーライターソケットと本機の接続は、付属の電源ケーブルを使用してください。

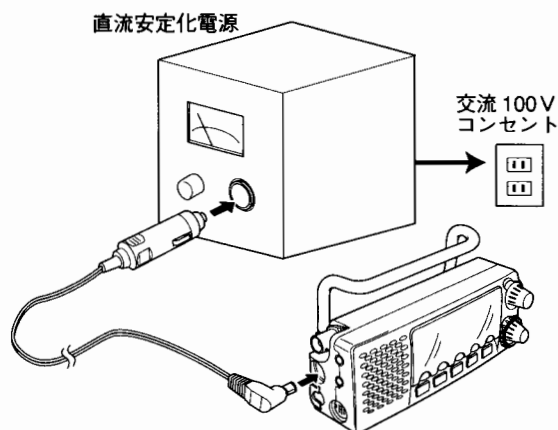


- 1 本機の電源コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。
- 2 付属の電源ケーブルを自動車のシガーライターソケットに接続します。

● ご注意

- ◆ 本機を24V仕様車で使用の場合は、市販の24Vを12Vに変換するDC-DCコンバータを必ずご使用ください。
- ◆ 本機を長時間使用しないときは、電源コードを外してください。
- ◆ ヒューズは、必ず4A定格のものを使用してください。ヒューズは、シガープラグ内に入っています。

■ 固定局の場合

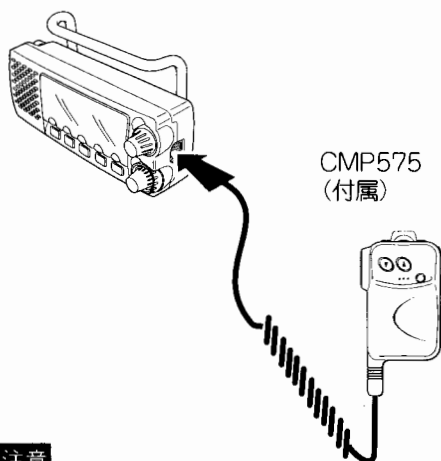


- 本機を固定局として使用するときは、直流安定化電源を使用してください。シガーライターソケット付きの電源をご利用になると、付属の電源ケーブルが使用できます。

- 直流安定化電源は、以下のものを使用してください。

出力電圧	13.8 V
出力電流	3.0 A 以上

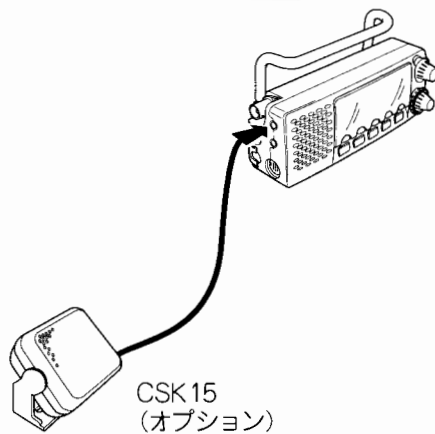
マイクロホンを接続するには



ご注意

- ◆ マイクを接続するときは、必ず電源を切ってから行ってください。

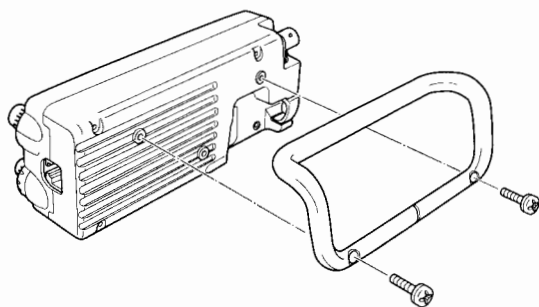
外部スピーカーを接続するには



ご注意

- ◆ 外部スピーカー端子は、スピーカー専用です。イヤホンなどは接続しないでください。
- ◆ 外部スピーカー端子については、「各部の名称と動作」(P.16)をご参照ください。

ハンドルを取り外すには



ご注意

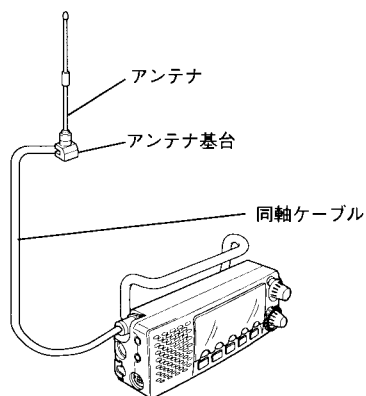
- ◆ ハンドルを取り外したとき、付属のビスは幼児の手の届かない所に保管してください。
- ◆ ハンドルを取り付けるときは、必ず付属のビスをご使用ください。

アンテナを取り付けるには

■ 車載の場合

無線機の送信および受信の性能は、アンテナの種類や特性に大きく左右されます。運用目的や設置条件に合ったアンテナを選んでください。

共用アンテナの場合



● 共用アンテナを使用する場合

本機は、デュプレクサー（2波共用器）を内蔵しています。従って、144/430MHz帯共用アンテナをそのまま接続して使用することができます。

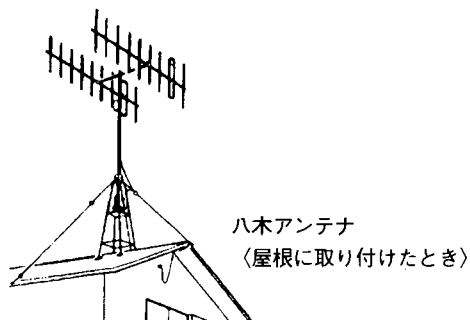
ご注意

- ◆ 運用する周波数帯に対応したアンテナを必ず接続してください。また、対応していないアンテナを接続した状態では、絶対に送信しないでください。故障の原因となります。
- ◆ アンテナのVSWRは、1.5以下になるように調整してください。VSWRが高いまま使用すると、本機の保護回路が働いて送信出力が低下したり、故障の原因となります。
- ◆ 同軸ケーブルは、傷をつけたり押しつぶしたりしないでください。
- ◆ アンテナ基台を取り付けるときは、アンテナ基台と車体のアースを完全にとってください。（ノンラジアルタイプの場合は不要です。）

■ 固定局の場合

外部アンテナを使用する場合は、同軸ケーブルをアンテナの直下でループ（たるみ）を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重が加わらないようにしてください。また、コネクタの雨よけや、ケーブルの固定方法については、アンテナの説明書をご参照ください。

屋根の上に設置するときの一例を示しましたが、詳しくは販売店あるいは当社営業所、サービスセンターにご相談ください。接続部の防水対策は、自己融着テープを引っ張りながら2重に巻き、その上を再度ビニールテープなどで巻いてください。



ご注意

- ◆ アンテナが倒れたり、強風で飛ばされたときなど、周囲の人家に危害を加えないよう、支線の張り方などに充分配慮してください。
- ◆ 同軸ケーブルは、できるだけ最短距離で配線してください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビ局やラジオ局の受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与える虞（おそれ）があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。以下省略

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて当社サービスセンター窓口やお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。日本アマチュア無線機器工業会（JAIA）および（社）日本アマチュア無線連盟（JARL）では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会（JAIA）

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-10-5 第2川端ビル

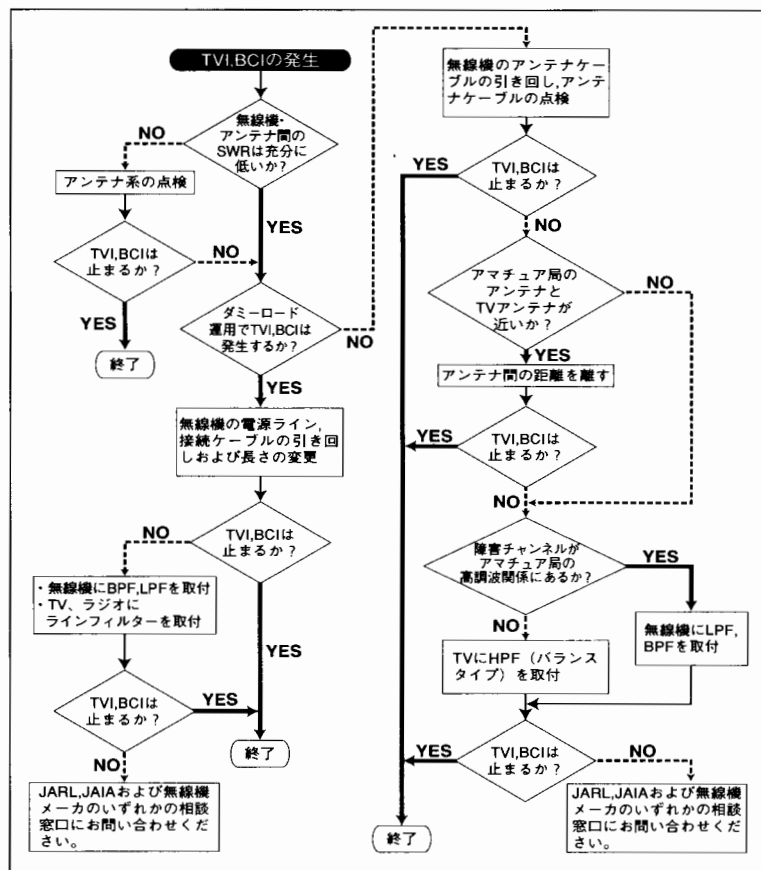
電話 03-3944-8611

（社）日本アマチュア無線連盟（JARL）

〒170-8073 東京都豊島区巣鴨1-14-5

電話 03-5395-3111

電波障害（TVI,BCI）対策フローチャート



点検してください

お使いになる前には、以下の事を確かめてからお使いください。

- 近くの電子機器・医療機器に電波障害を与えていませんか？
- 近くのテレビ、ラジオなどに電波妨害を与えていませんか？
- 無線機の使用が禁止されている場所ではありませんか？
(病院内、航空機内、空港敷地内、新幹線車両内など)
- アンテナは正しく取り付けられていますか？
- 電源ケーブルは、正しく取り付けられていますか？

⚠ 注意

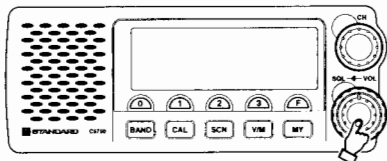
- ◆ この機器が近くのテレビ・電子機器・医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。
- ◆ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して、販売店または当社営業所、サービスセンターに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	12
スケルチを調整するには	12
音量を調整するには	12
バンドを選択するには	13
VFO状態にするには	13
受信するには	14
送信するには	14
ファンクションモードにするには	15
各種の設定を最初の状態に戻すには（リセットモード）	15
各部の名称と動作	16

電源を入れるには

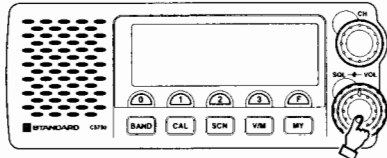
1 P.PWR/VOLツマミを押す



2 表示が出たことを確かめる



3 電源を切るには、もう一度P.PWR/VOLツマミを押す



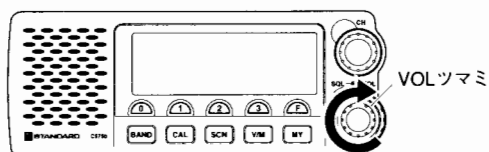
4 表示が消えたことを確かめる

アドバイス

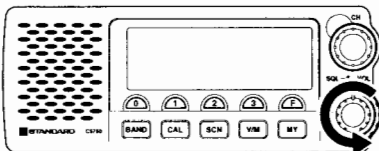
- ◆手順2では、3秒間周波数の下にモデル名と電源電圧が表示されます。

音量を調整するには

1 音量を大きくするには、VOLツマミを、時計方向に回す



2 音量を小さくするには、VOLツマミを、反時計方向に回す



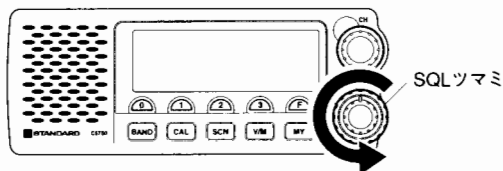
アドバイス

- ◆他の交信が聞こえているときは、その音を目安に音量を調整してください。交信が聞こえないときには、リモコンマイクの[SQL OFF]キーを一度押してください。スケルチオフ状態(P21)になり、ザーという音が聞こえるので、その音を目安に音量を調整してください。調整が終わりましたら、もう一度[SQL OFF]キーを押してください。

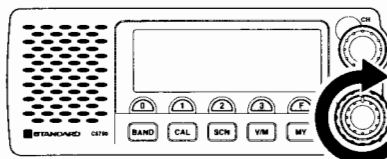
スケルチを調整するには

信号を受けていないときは、ザーという音がでます。この音を消すのがスケルチです。

1 SQLツマミを、反時計方向に回しきる (ザーという音が聞こえる。)



2 SQLツマミをゆっくり時計方向に回す



3 ザーという音が消える位置で、ツマミを止める

アドバイス

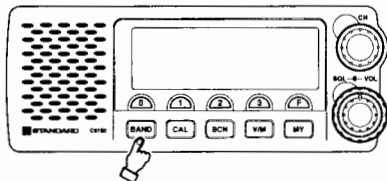
- ◆ザーという音が出ている状態を「スケルチオフ」といいます。スケルチの操作により、ザーという音が出ない状態を「スケルチオン」といいます。
- ◆SQLツマミを回し過ぎると、弱い信号を受けられないことがあります。
- ◆弱い信号を受信したときに音声が届切れるときは、スケルチオフ機能を使うと途切れなくなります。(音声が途切れるときはP21)
- ◆本機にはRFスケルチ機能(P42)があり、一定以上の強い信号を受信したときだけスケルチを開かせることができます。

バンドを選択するには

VHFバンドとUHFバンドでバンドの切り替えを行います。周波数の変更や送信などは、表示されているバンドで行います。

無線機では

- 1 [BAND] キーを押す



- 2 表示が切り替わったことを確かめる

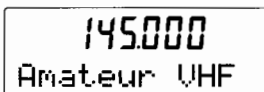


リモコンマイクでは

- 1 [BAND] キーを押す



- 2 表示部が切り替わったことを確かめる



VFO状態にするには

VFO (Variable Frequency Oscillator) 状態とは、無線機のセレクトターを回すか、マイクの [UP] または [DOWN] キーを押して、周波数を変えることができる状態をいいます。工場出荷時や、オールリセット、VFOリセット直後は、VFO状態です。

- 1 表示部を確かめる

- 2 Mが表示されているときは、無線機の [VM] キーを押す、またはマイクの [VM] キーを押す (メモリーモードです。P.27)
M、Cが表示されているときは、無線機の [VM] キーを押す、またはマイクの [VM] キーを押す (コール周波数です。P.20)
小数点が点滅しているときは、[SCN] キーを押す (スキャン中です。P.33)
HMが表示されているときは、[O] ボタンを押した後、各モードに従ってVFO状態にする (ハイパーメモリーです。P.29)
セットモードのときは、解除されるまで [MY] キーを押し、各モードに従ってVFO状態にする

- 3 VFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆ VFOへの戻し方がわからなくなったら、VFOリセット (P.15) を行ってみてください。VFO状態を初期状態に戻し、VFO状態になります。
- ◆ コール周波数のとき、セレクトターを回すと、表示されていたコール周波数のままでVFO状態になります。

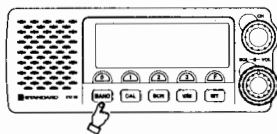
受信するには

話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。
受信したいバンドに切り替え、周波数などを変えます。

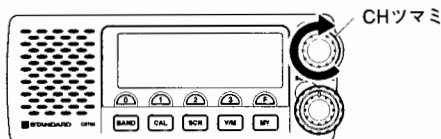
無線機では

1 VFO状態にする

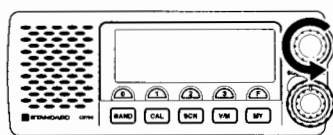
2 [BAND] キーを押し、バンドを選ぶ



3 CHツマミを時計方向に回し、周波数を上げる



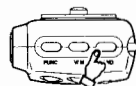
4 CHツマミを反時計方向に回し、周波数を下げる



リモコンマイクでは

1 VFO状態にする

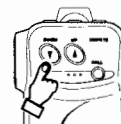
2 [BAND] キーを押し、バンドを選ぶ



3 [UP] キーを押し、周波数を上げる



4 [DOWN] キーを押し、周波数を下げる



アドバイス

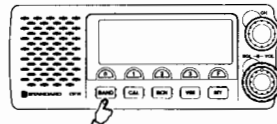
- ◆ オプションのリモコンマイクCMP575Dを使用すると、周波数をダイレクト入力することができます。(ダイレクト入力D66)
- ◆ [UP] キーおよび[DOWN] キーを押し続けると、周波数が連続して変化します。

送信するには

周波数を合わせた相手と、送信する([PTT] スイッチを押す)ことで話ができます。

1 VFO状態にする

2 [BAND] キーを押し、バンドを選ぶ

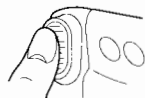


3 話しをしたい相手と、周波数を合わせる



4 送信しようとする周波数で、他の人が交信していないことを確かめる

5 [PTT] スイッチを押しながら、マイクに向かって話す



アドバイス

- ◆ 送信出力は、セットモードにより変更できます。(D24)

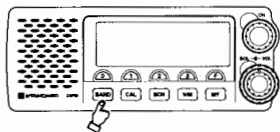
ファンクションモードにするには

本機の設定を変更するときに、ファンクションモードにより行います。

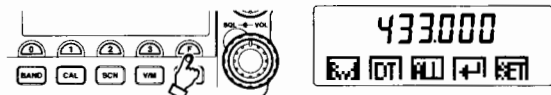
無線機では

1 VFO状態にする

2 [BAND] キーを押し、バンドを選ぶ

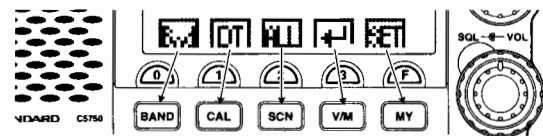


3 [F] キーを押し、ファンクションモードにする (5秒間キーが押されないと、ファンクションモードは解除されます。)



アドバイス

◆ ファンクションモード中の下段表示は左から、[BAND] キー、[CAL] キー、[SCN] キー、[VM] キーそして[MY]キーに対応しています。



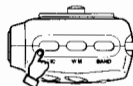
リモコンマイクでは

1 [BAND] キーを押し、バンドを選ぶ



2 VFO状態にする

3 [FUNC] キーを押し、ファンクションモードにする (5秒間キーが押されないと、ファンクションモードは解除されます。)



アドバイス

◆ ファンクションモード中の下段表示と、その機能については、「ファンクションモードの表示と機能」(P.70)をご覧ください。

各種の設定を最初の状態に戻すには (リセットモード)

設定した状態を、次の4種類の方法で、お買い上げになったときの状態(初期状態)に戻すことができます。

● オールリセット

すべての設定を、初期状態に戻します。
(お買い上げになったときの状態に戻ります。)

表示部：
RESET
オールリセット

● VFOリセット

VFO、コール周波数、セットモードなどの設定を初期状態に戻します。(メモリーおよびハイパーメモリーは、リセットされません。)

表示部：
VFOリセット

● メモリーリセット

メモリーの設定のみを、初期状態に戻します。
(VFOの設定およびハイパーメモリーは、リセットされません。)

表示部：
メモリーリセット

● ハイパーメモリー + VFOリセット

ハイパーメモリーの設定を初期状態に戻し、VFOリセットを行います。(メモリーの設定は、リセットされません。)

表示部：
HM+VFOリセット

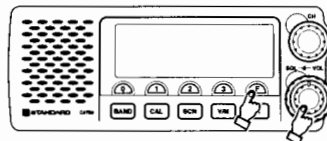
● GPSリセット

GPSに関係する設定のみ初期化します。

表示部：
GPSリセット

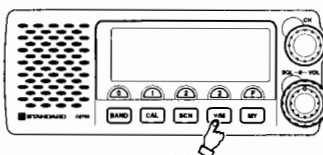
1 電源を切る

2 [F] キーを押しながらVOLツマミを押し、電源を入れる



3 CHツマミを回し、リセットを選ぶ

4 [VM] キーを押す



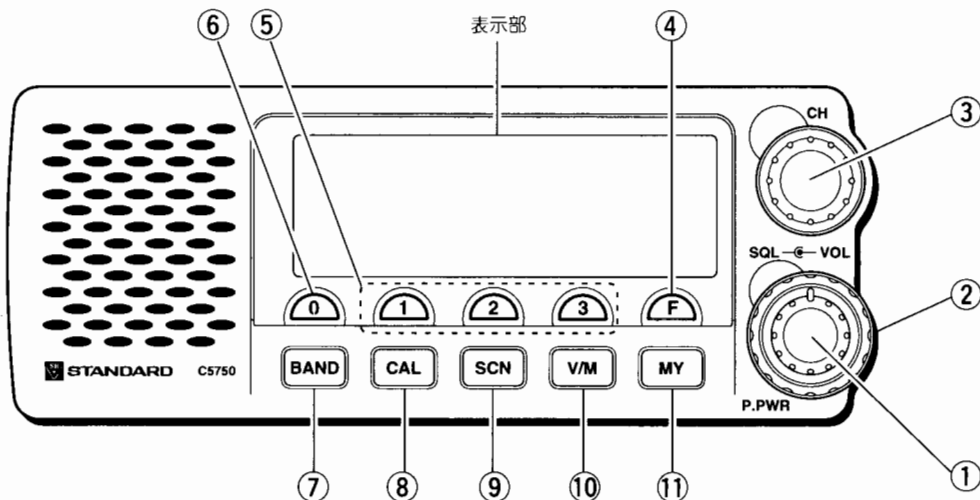
5 リセットされたことを確かめる

アドバイス

- ◆ 間違った設定をしてしまい、もとの状態に戻せないときは、VFOリセットを行ってみてください。
- ◆ リセットを行った後は、再度電源を入れ直す必要はありません。
- ◆ リセットの操作を途中で中断する場合は、電源を入れ直してください。

各部の名称と動作

無線機の各部の名称と主な動作は次のようになります。



① P.PWR/VOL ツマミ

- このキーを押し、電源の入／切を行います。
- このツマミを回し、音量を調整します。
- 電源が切れている状態で、ファンクションキーを押しながら、このキーを押すと、リセットモードになります。

② SQL ツマミ

- このツマミを回し、スケルチを調整します。

③ CH ツマミ

- このツマミを回すと、周波数を変更することができます。
- 各種の設定を行うときに、このツマミを回し設定を変更することができます。
- このツマミを回し変更した設定を、このツマミを押し決定します。
- このツマミを一度押すと、1 MHz 台の周波数を変更することができます。もう一度押すと、もとの周波数ステップに戻ります。
- **F**：バンドスコープ機能のオン

④ F

- このキーを一度押すと、ファンクションモードになります。このとき、表示部の下の段に、各キー対応した表示が出ます。キー操作が5秒間無いときは、ファンクションモードは解除されます。
- 本書では、ファンクションモードを、**F**で表しています。

⑤ 1～3

- ハイパーメモリー(HM)の1～3を呼び出します。
- 本書では、HMボタンと表記します。
- **F**：ハイパーメモリー(HM)の4～6を呼び出し

⑥ 0

- このキーを押すと、ハイパーメモリーを解除します。

⑦ BAND

- バンドの切り換え
- **F**：メモリータグ編集(メモリーモード及びコールモード)
- **F**：コールサイン、メッセージ、緯度・経度等の編集(GPS キノウ on 時)

⑧ CAL

- コール周波数(呼出周波数)の呼び出し／解除
- **F**：DTMFコードの設定

⑨ SCN

- 1 MHz スキャンの開始／解除
- **F**：オールスキャンの開始／解除
- **F**：プログラムスキャンを行う周波数範囲の設定(コールモード)
- **F**：このキーを2回押し、プログラムスキャンを開始(コールモード)
- **F**：メモリーシフト(メモリーモード)

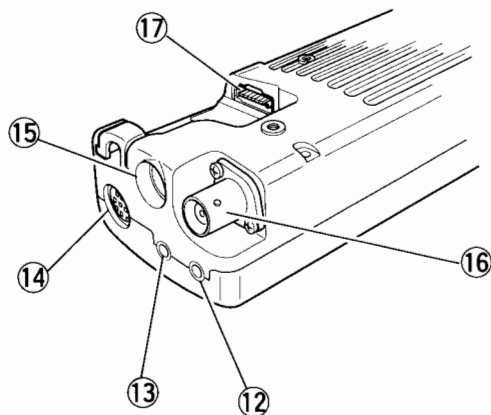
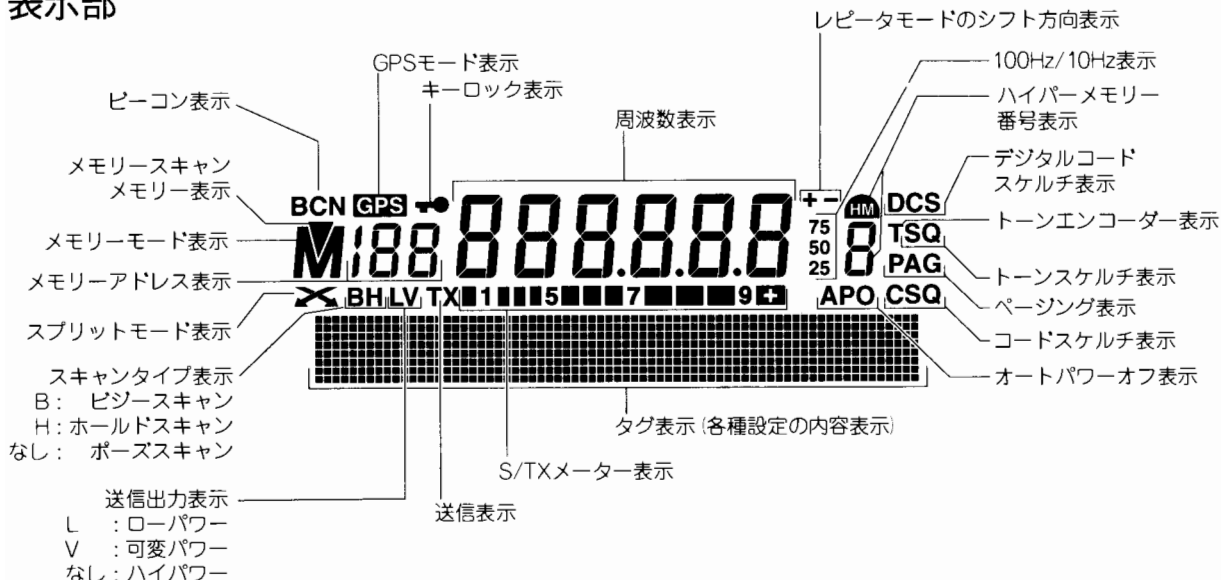
⑩ V/M

- VFO状態とメモリーモードの切り替え
- **F**：メモリーの書き込み(VFO状態)
- **F**：メモリーの書き換え(メモリーモード)
- **F**：コール周波数の書き換え(コールモード)

⑪ MY

- マイキーに登録したセットモードの切り替え
(初期状態では、送信パワー切り換えが登録されています。)
- **F**：セットモードの呼び出し(セットモード)

表示部



⑫ 外部スピーカー端子

- 外部スピーカーを接続した場合、内蔵スピーカーからは音が出ません。

⑬ SER(シリアル)端子

- コンピュータのシリアル端子と接続します。

⑭ GPS端子

- GPSレシーバーGPS575のコネクターを接続します。

⑮ 電源(直流 13.8V)入力端子

- 付属の電源ケーブルを接続します。

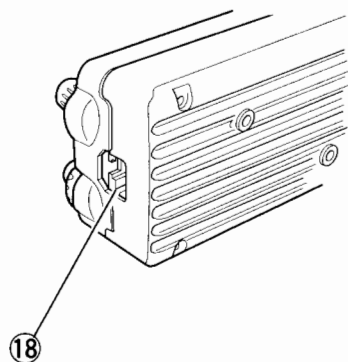
ご注意

- 他のケーブルは、接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

⑯ BNC型アンテナ端子(144/430MHz帯共用)

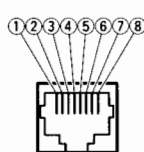
⑰ インターフェースジャック

- オプションのCPB510/CPB510Dを接続します。



⑱ マイク端子

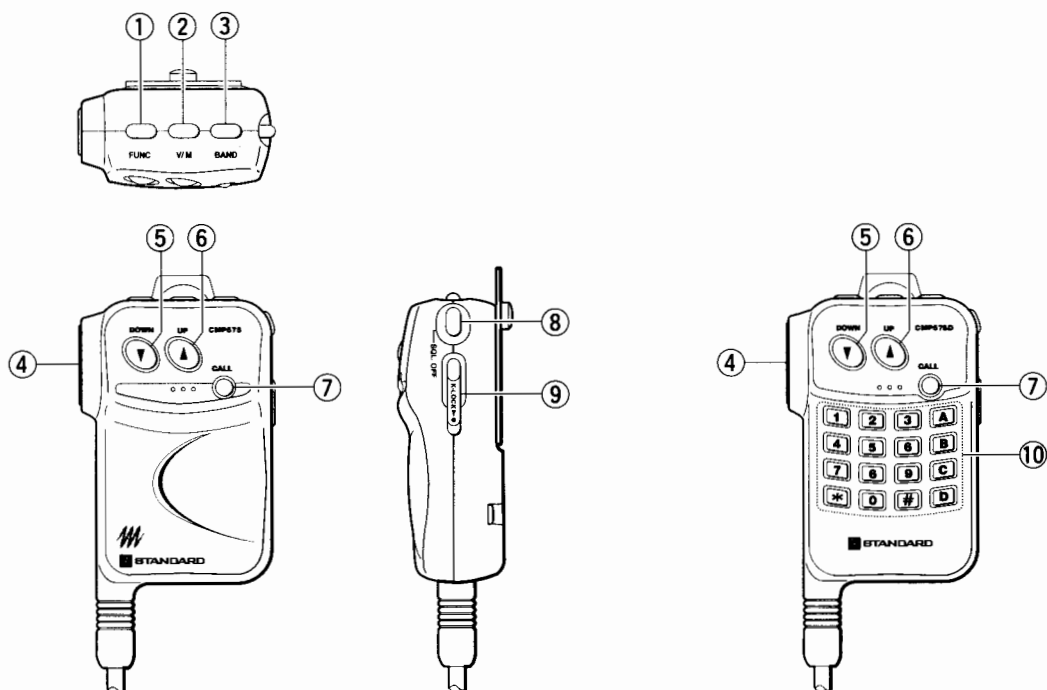
- マイク端子の各ピンの配線は、次のようになっています。



ご注意

- 1番ピンには電圧が出力されているので、絶対に他の端子とショートさせないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- C5750専用マイクロホンCMP575、CMP575D以外のマイクロホンを使用する場合は、1番ピン、7番ピン、8番ピンには、絶対に何も接続しないでください。接続すると、無線機本体やマイクロホンの故障の原因となります。
- 当社指定以外のマイクロホン・ケーブルなどを接続した場合、これが原因で本機および本機に接続されている機器が、故障・破損することがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となることがあります。

リモコンマイクの各部の名称と主な動作は次のようになります。



CMP575 (付 属 品)

CMP575D (オプション)

① FUNC

- このキーを押し、ファンクションモードの設定/解除を行います。

② V/M

- VFO状態とメモリーモードを切り換えます。

③ BAND

- バンドを切り替えます。

④ PTT

- このスイッチを押している間、送信します。

⑤ DOWN

- 周波数、アドレス番号などがダウンします。
- スキャンの方向をダウン方向にします。スキャンが一時停止しているときは、ダウン方向へスキャンを再開します。

⑥ UP

- 周波数、アドレス番号などがアップします
- スキャンの方向をアップ方向にします。スキャンが一時停止しているときは、アップ方向へスキャンを再開します。

⑦ CALL

- コール周波数(呼出周波数)の呼び出し/解除

⑧ SQL OFF

- このキーを押すと、スケルチがオフになります。

⑨ K-LOCK

- このキーを下にスライドさせると、キーロックが設定されます。リモコンマイクで、[PTT]スイッチ、[FUNC]キー以外の操作ができなくなります。
(無線機のキーは、ロックされません。)

⑩ 16 キー (オプションのCMP575Dのみ)

- 受信中にキーを押すと、周波数をダイレクト入力することができます。
- 受信中に[#]キーを押した後、3秒以内に[0]～[6]キーを押すと、その数字のハイパーメモリーを呼び出すことができます。[#]キーを押した後、キー操作が3秒間無い場合、ポッ音がしてこのモードは解除されます。
(ハイパーメモリーは、マイクからの操作で変更内容を書き込むことはできません。)
- 送信中にキーを押すと、DTMF信号を送出することができます。

もっと自由にあつかうために

コール周波数（呼出周波数）を使うには	20
コール周波数を変えるには	20
コール周波数に各種設定を書き込むには	21
セットモードを使うには	21
音声途切れるときは（スケルチオフ）	21
セットモードの機能を簡単に切り換えるには（マイキー）	22
間違って操作するのを防ぐには（キーロック）	22
周波数を 1 MHz ステップで変えるには	23
周波数ステップを変えるには	23
送信出力を変えるには	24

コール周波数（呼出周波数）を使うには

コール周波数(呼出周波数)は、特定または不特定の相手局を呼び出すときに使用します。

無線機では

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 **[CAL]** キーを押す
(表示部にM Cが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

M C 433000
UHF CALL

3 もとの表示に戻るには、**[CAL]** キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、CHツマミを回す

リモコンマイクでは

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 **[CALL]** キーを押す
(表示部にM Cが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

M C 433000
UHF CALL

3 もとの表示に戻るには、**[CALL]** キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押す

コール周波数を変えるには

コール周波数を違う周波数に変更できます。

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 **[CAL]** キーまたはマイクの **[CALL]** キーを押す
(表示部にM Cが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

M C 433000
UHF CALL

3 **[F]** キーを押した後、**[V/M]** キーを押す
(Mの表示が点滅します。)

点滅 M C 433000
[BAND] [CAL] [F] [V/M] [CH]

4 CHツマミを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押し、変更する周波数にする

M C 433200
UHF CALL

5 ファンクションモード中に、**[V/M]** キーを押す
(Mの表示が点滅から点灯に変わり、コール周波数が変更されました。)

[F]

6 もとの表示に戻るには、**[CAL]** キーまたはマイクの **[CALL]** キーを押す
変更したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、CHツマミを回すか、マイクの **[UP]** または **[DOWN]** キーを押す

アドバイス

- ◆ 手順4で、オプションのリモコンマイクCMP575Dを使っても、周波数をダイレクト入力 (P.66) することはできません。
- ◆ 手順5で、ファンクションモードが解除されているときは、**[F]** キーを押してください。

コール周波数に各種設定を書き込むには

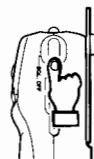
コール周波数に、各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータモード、オフセット周波数、トーンエンコーダー、トーンスケルチ、トーン周波数、DCSモード、DCSコード、ページングモード、コードスケルチモード、スプリットモード、スプリット周波数、タグ表示です。

- 1** **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ
- 2** **[CAL]** キー または マイクの **[CALL]** キーを押す
(表示部に M C が表示され、コール周波数が呼び出されました。)
- 3** 各種の設定を行う
レピータモード (p38)、オフセット周波数 (p39)
トーンエンコーダーモード (p51)
トーン周波数 (p51)、トーンスケルチモード (p51)
DCS モード (p51)、DCS コード (p52)
ページングモード (p47)
コードスケルチモード (p48)
スプリットモード (p40)、スプリット周波数 (p40)
タグ表示 (p28)
- 4** もとの表示に戻るには、**[CAL]** キー または マイクの **[CALL]** キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、CHツマミを回すが、マイクの **[UP]** または **[DOWN]** キーを押す

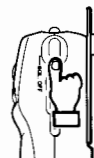
音声が入切れるときは (スケルチオフ)

スケルチが働いていると、弱い信号を受けたときに、音声が出なかったり、途切れたりします。このようなときに、スケルチを一時的にオフにできます。

- 1** **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ
- 2** スケルチをオフにするには、**[SQL.OFF]** キーを一度押す



- 3** スケルチをオンに戻すには、もう一度 **[SQL.OFF]** キーを押す

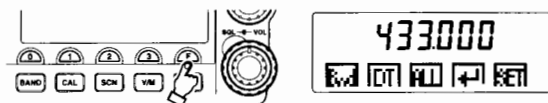


アドバイス

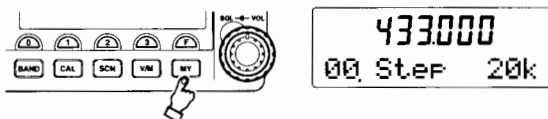
- ◆ RFスケルチ、コードスケルチモード、ページングモード、トーンスケルチモード、DCSモードが設定されているときでも、この機能を使うとスケルチをオフにすることができます。

セットモードを使うには

- 1** **[F]** キーを押しファンクションモードにする
(5秒間キーが押されないと、ファンクションモードは解除されます。)



- 2** ファンクションモード中に **[MY]** キーを押し、セットモードにする

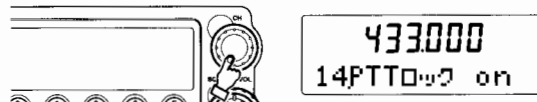


- 3** CHツマミを回し、変えたいセットモードにする



(ここでは、メニュー番号14のPTTロックが選ばれました。)

- 4** CHツマミを押し、セットモードの内容を変更する



- 5** 他のセットモードの内容を変更する時は、手順3と4を繰り返す

- 6** **[MY]** キーを押し、VFOに戻る

アドバイス

- ◆ セットモードにより、バンドごとに設定できるものと、バンドで共通のものがあります。詳しくは、「セットモード機能の一覧 (p69)」をご覧ください。

セットモードの機能を簡単に切り換えるには（マイキー）

[MY] キーに、よく使うセットモードを登録することができます。そして、このキーを押すことで、登録されているセットモードの機能を切り換えることができます。初期状態では、送信パワーの切り換え（P24）が登録されています。

■マイキーでセットモードを切り換えるには

[MY] キーを押す
（キーを押している間、切り換わったセットモードが表示されま
す。）

マイキー登録表示

433000
12 Power VAR

■マイキーに登録するには

1 セットモード（P21）にする

F

2 CHツマミを回し、登録したいセットモードを表示させる

3 [F] キーを押しながら、[MY] キーを押す （登録されるとピー音がし、セットモード番号の下に－が点灯し ます。）

マイキー登録表示

433000
13 ホウシ TAG

4 [MY] キーを押す、VFOに戻る

アドバイス

- ◆一部登録できないセットモードがあります。登録できるセットモードは、「セットモード機能の一覧」（P69）を参照してください。登録できないセットモードを登録しようとする、手順3でブザーがします。
- ◆オールリセット、VFOリセット、およびハイパーメモリー＋VFOリセットを行うと、「送信出力の変更」が登録された状態に戻ります。（P15）
- ◆セットモードのとき、セットモード番号の下に－が点灯している機能が、現在マイキーに登録されている機能です。

間違って操作するのを防ぐには（キーロック）

キーやセレクターを間違っ操作し、周波数が変わってしまうのを防ぐ機能です。キーロックは、無線機、リモコンマイクでそれぞれ独立して設定できます。

無線機では

1 ファンクションモード中に、[MY] キーを押す

2 CHツマミを回し、セットモード番号を17にする

433000
17KeyLock off

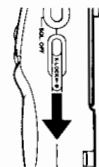
3 CHツマミを押す、表示を off から on にする （表示部に●が点灯します。）

433000
17KeyLock on

[MY] キーを押す、VFOに戻る

リモコンマイクでは

1 キーロックを設定するには、[K-LOCK] スイッチを下にスライドする



2 キーロックを解除するには、[K-LOCK] スイッチを上スライドする

アドバイス

- ◆この機能が設定されると、[PTT] スイッチと[FUNC] キー以外が操作できなくなります。
- ◆無線機は、キーロックされません。

アドバイス

- ◆この機能を解除するには、手順3で表示を off にしてください。
- ◆この機能が on のときに操作できるキーは、[F]、[PWR]、およびファンクションモードの状態では [MY] キーのみです。
- ◆無線機がキーロックされているとき、セットモードはキーロックの設定以外変更できません。
- ◆無線機がキーロックされているとき、リモコンマイクは [PTT] スイッチ、[FUNC]、[SOLOFF] キーのみ使えます。

周波数を 1 MHz ステップで変えるには

周波数のステップを 1 MHz で変えることができます。また、このステップを 100 kHz に変えることができます。

■ステップを 1 MHz で変えるには

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 CH ツマミを押す

(周波数表示の 100 kHz 以下が、--- になります。)

433.---
Amateur UHF

3 CH ツマミを回すか、マイクの **[UP]** または **[DOWN]** キーを押す
(周波数が 1 MHz で変わります。)

4 もとのステップに戻るには、もう一度 CH ツマミを押す

433200
Amateur UHF

(周波数表示の 100 kHz 以下が、通常の表示に戻ります。)

■ステップを 100 kHz に変えるには

1 ファンクションモード中に、**[MY]** キーを押す

[F]

2 CH ツマミを回し、セットモード番号を 01 にする

433000
01F-Step 1M

3 CH ツマミを押す、表示を 1M から 0.1 M にする

4 **[MY]** キーを押し、VFO に戻る

アドバイス

◆ 初期状態では、1 MHz に設定されています。

周波数ステップを変えるには

初期状態では、CH ツマミを回すか、マイクの **[UP]** または **[DOWN]** キーを押すと、周波数は 20 kHz のステップで変わります。周波数のステップは、5/6.25/10/12.5/15/20/25/30/50/100 kHz の 10 種類から選ぶことができます。

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 ファンクションモード中に、**[MY]** キーを押す

3 CH ツマミを回し、セットモード番号を 00 にする

433000
00 Step 20k

4 CH ツマミを押す、表示を 20k から変更する

5 **[MY]** キーを押し、VFO に戻る

アドバイス

◆ 初期状態では、20 kHz に設定されています。

◆ バンドごとに設定できます。

送信出力を変えるには

送信出力を変えることができます。
初期状態では、ハイパワーに設定されています。

1 **[BAND]** キーを押し、バンドを選ぶ

2 ファンクションモード中に、**[MY]** キーを押す

3 CHツマミを回し、セットモード番号を 12にする

433000
12 Power HI

4 CHツマミを押し、表示を HI から VARまたはLOWにする
(HIを選ぶと、送信出力はハイパワーになります。
VARを選ぶと、送信出力はローからハイパワーの間で任意に設定できます。
LOWを選ぶと、送信出力はローパワーになります。)

5 **[MY]** キーを押し、VFOに戻る

アドバイス

◆ バンドごとに設定できます。

◆ 送信時の表示は、設定により次のようになります。

ハイパワー TX■1■■■■5■■■■7■■■■9

VAR設定 V TX■1■■■■5■■■■

ローパワー L TX■1

◆ 送信出力をVARに設定すると、**[PTT]** スイッチを押しながらCH ツマミを押すと、送信出力変更状態になります。送信出力変更状態ではTX が点滅します。この状態でCH ツマミを回すとローからハイパワーの間で、送信出力が任意に設定できます。電源を切っても、ここでの設定は記憶されています。初期設定では、約3Wに設定されています。

◆ 各機種の送信出力は、次のとおりです。

ローパワー：0.3 W

ハイパワー：7.0 W (VHF)、6.0 W (UHF)

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	26
メモリーするには	26
メモリーを呼び出すには	27
メモリーを変更するには	27
メモリーを消すには	28
メモリーの内容を表示するには（メモリータグ）	28
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	28
ハイパーメモリー（HM）機能について	29
ハイパーメモリーを呼び出すには	29
ハイパーメモリーを変更するには	30

メモリー機能について

- よく使う周波数を、メモリーまたはハイパーメモリー (p.29) に書き込むことができます。
- メモリーは、VHFバンドとUHFバンド共用で180波の周波数を書き込めます。ハイパーメモリーは、6波の周波数を書き込めます。
- メモリーに書き込みを行っているときや、呼び出しているときを、「メモリーモード」といいます。
- 周波数を書き込んだメモリーの番号を、「メモリーアドレス」といいます。メモリーアドレスは、00～179まであります。
- 各メモリーには、周波数の他に次の内容を書き込むことができます。

レピータモード (p.38)
 スプリットモード (p.40)
 スプリット周波数 (p.40)
 オフセット周波数 (p.39)
 コードスケルチモード (p.48)
 トーンエンコーダーモード (p.51)
 トーンスケルチモード (p.51)
 トーン周波数 (p.51)
 DCS モード (p.51)
 DCS コード (p.52)
 ページングモード (p.47)
 コードスケルチモード (p.48)
 メモリースキャンメモリーの設定 (p.35)
 メモリータグ (p.28)

メモリーするには

よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

- 1 バンドを選び、VFO状態にする

- 2 CHツマミを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押し、メモリーに書き込みたい周波数にする

433200
 Amateur UHF

- 3 ファンクションモード中に、**[VM]** キーを押す
 (空いているメモリーアドレスが表示されます。)

メモリーアドレス

00 433200
 [0] [1] [2] [3] [4] [5]

- 4 CHツマミを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押し、書き込みたいメモリーアドレスにする

01 433200
 [0] [1] [2] [3] [4] [5]

- 5 ファンクションモード中に、**[VM]** キーを押す
 (ピー音がし、メモリーに書き込まれました。)

F

- 6 約1秒後にVFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆ 手順3でメモリーに空きがないと、ブザーがします。このときは、「メモリーを変更するには」(p.27)、または「メモリーを消すには」(p.28)の手順に従って、不要なメモリーを変更するか、消してください。
- ◆ 手順3～4で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていないアドレスのみです。
- ◆ 手順4でファンクションモードが解除されても、メモリーアドレスは変更できます。
- ◆ 手順4でCHツマミを押すと、アドレスの10の桁が変更できるようになります。CHツマミをもう一度押すと、アドレスの1桁目の変更に戻ります。
- ◆ 操作を途中で中断する場合は、手順5を行う前に、ファンクションモードが解除された後、**[VM]** キーを押してください。

メモリーを消すには

書き込まれているメモリーを、消すことができます。

- 1 VFO状態にし、**[V/M]**キーを押す
- 2 CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押して、消去するメモリーアドレスにする
- 3 セットモード (**P21**)にて、セットモード番号を23にする

MOI433440
23. Mクリア

- 4 CHツマミを押した後に**[V/M]**キーを押す
(ピー音がし、メモリーが消去されました。)

MOI433440
23. MクリアENT

- 5 VFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆ 手順4を行うと、消えたメモリーを復活させることはできません。操作を途中で中断する場合は、CHツマミを押し、表示部からENTが消えたことを確かめた後、セットモードを解除してください。
- ◆ すべてのメモリーを消すときは、リセットモードにてメモリーリセット (**P15**)を行ってください。

メモリー周波数に各種設定を書き込むには

書き込まれている周波数に、各種の設定を書き込むことができます。

- 1 バンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[V/M]**キーを押す
- 3 CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押して、設定するメモリーアドレスにする
- 4 各種の設定を行う
レピータモード (**P38**)、オフセット周波数 (**P39**)
スプリットモード (**P40**)、スプリット周波数 (**P40**)
コードスケルチモード (**P48**)
トーンエンコーダーモード (**P51**)
トーンスケルチモード (**P51**)、トーン周波数 (**P51**)
DCSモード (**P51**)、DCSコード (**P52**)
ページングモード (**P47**)、コードスケルチモード (**P48**)
メモリースキャンメモリーの設定 (**P35**)
メモリータグ (**P28**)

- 5 もとの表示に戻るには、**[V/M]**キーを押す
メモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、ファンクションモード中に、**[SCN]**キーを押す

メモリーの内容を表示するには (メモリータグ)

メモリーに書き込まれている、周波数や各種機能の設定についての注釈をメモリータグとして登録することができます。メモリータグとして、8文字入力することができます。使える文字は、アルファベット、カタカナ及び記号の合わせて192種類(スペース含む)です。

- 1 VFO状態にする
- 2 **[V/M]**キーを押す
- 3 CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押して、メモリータグを登録したいメモリーアドレスにする

MOI433200

- 4 ファンクションモード中に、**[BAND]**キーを押す
(タグ入力が表示されます。)

MOI433200
[BAND] [BAND] [BAND] [BAND]



MOI433200
TAG:

- 5 CHツマミを押し、一文字目の入力にする
(カーソルが点滅します。)

MOI433200
TAG: ■

カーソル点滅

- 6 CHツマミを回し、入力したい文字にする

MOI433200
TAG: ✕

- 7 CHツマミを押し、文字を決定する
(カーソルが移動し、次の文字の入力になります。)

- 8 手順6と7を繰り返して、文字を入力していく
(8文字目を入力すると、自動的にタグは登録されます。)

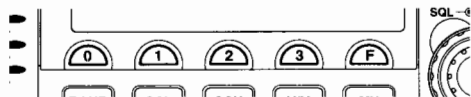
- 9 メモリータグを終了するには、**[BAND]**キーを押す、メモリーモードに戻る

アドバイス

- ◆ メモリータグの内容を変更するには、手順5までを行い、CHツマミを押し、変更したい文字までカーソルを移動して、新しい文字を入力してください。
- ◆ メモリータグが7文字以下の時は、手順8でファンクションモードにし、**[V/M]**キーを押してください。
- ◆ メモリータグの内容を消去するときは、入力した文字の代わりにスペースを入力してください。
- ◆ HMボタンの **[1]** または **[3]** を押し、変更したい桁にカーソルを移動できます。また、HMボタンの **[2]** ボタンを押すと、カーソルの前の桁を消去します。

ハイパーメモリー (HM) 機能について

- ハイパーメモリーには、VHFバンド、UHFバンドに関係なく、無線機のほとんどの状態を書き込むことができます。
- 本書では、ハイパーメモリーをHMと表記します。
- 無線機には、HM専用のボタンを4個装備しており、各メモリーをワンタッチで呼び出すことができます。これらのボタンをHMボタンと呼びます。



- HMボタンの①～③を押すと、各HMを呼び出すことができます。また、HMボタンの④を押すと、通常のVFO状態に戻ることができます。
- 各HMには、初期状態では次の周波数書き込まれています。

HM番号	周波数 (MHz)
0	VFO状態
1	433.000
2	433.000
3	145.000
4	433.000
5	145.000
6	145.000

- HMを呼び出した後、周波数や各種の設定などを一時的に変えることはできませんが、変更した状態は保存されません。再度同じHMを呼び出すと、変更する前の状態が呼び出されます。変更した状態を保存するには、書き込む操作を行う必要があります。

- 各HMには、周波数の他に、次の内容を書き込むことができます。

- バンド
- メモリー呼び出し、スキャンなどの状態
- 送信出力
- セットモードのアドレス
- プログラムスキャンアドレス
- レピータモード
- オフセット周波数
- バンドスコープモード
- コードスケルチ
- トーンエンコーダー
- トーンスケルチ
- トーン周波数
- DCSモード
- DCSコード
- GPSモード
- セットモードの一部

セットモードの番号	機能
13	ドットマトリックス表示内容
24	スキャンモード
29	GPS機能の切り換え
30	ビーコン機能の切り換え
31	PCインターフェース機能の切り換え

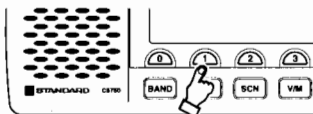
- オプションのリモコンマイクCMP575Dを使用すると、リモコンマイクからの操作で、各HMを呼び出すことができます。受信中に[**#**]キーを押した後、3秒以内に[**1**]～[**6**]キーを押すと、その数字のHMが呼び出されます。[**#**]キーを押した後、キー操作が3秒間無い場合、このモードは解除されます。

ハイパーメモリーを呼び出すには

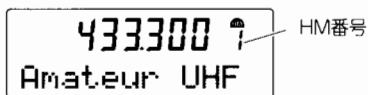
書き込まれているHMを呼び出します。

- HMの1～3を呼び出すには、HMボタンの①～③を押す
HMの4～6を呼び出すには、[**F**]キーを押した後、HMボタンの①～③を押す

リモコンマイク CMP575D (オプション) では
HMを呼び出すには、[**#**]キーを押した後、[**1**]～[**6**]キーを押す



- HMが呼び出され、表示部にHMの文字と、呼び出したHMの番号が表示されたことを確かめる



- 通常の状態に戻るには、HMボタンの④を押す
他のHMを呼び出すには、他のHMボタンを押す

リモコンマイク CMP575D (オプション) では
通常の状態に戻るには、[**#**]キーを押した後、[**0**]キーを押す
他のHMを呼び出すには、[**#**]キーを押した後、[**1**]～[**6**]キーを押す

アドバイス

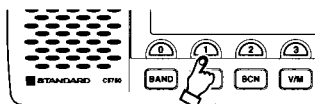
- ◆ 手順2の状態では、周波数や各種の設定を一時的に変えることができます。しかし、変更した状態は保存されません。再度同じHMを呼び出すと、変更する前の状態が呼び出されます。
- ◆ 手順2で、HMの0を呼び出した場合、HM番号は表示されません。
- ◆ HMの1～6を呼び出しているときに、表示されている周波数のままでVFO状態に戻ることはできません。

ハイパーメモリーを変更するには

HMに書き込まれている周波数や各種の設定を変えることができます。

1 無線機をHM(ハイパーメモリー)に書き込みたい状態にする

2 手順1で設定した状態を書き込みたいHMボタンを約2秒間押す HMの4～6書き込むには、[F]キーを押した後、HMボタンの ①～③を約2秒間押す



(以前の内容が表示され、ピッピッピ音がした後、ピー音がしてメモリーに書き込まれます。また、HM番号の数字が点滅から点灯に変わります。)

3 通常の状態に戻るには、HMボタンの①を押す 他のHMを呼び出すには、他のHMボタンを押す

[リモコンマイクCMP575Dでは(オプション)]

通常の状態に戻るには、[#]キーを押した後、[0]キーを押す
他のHMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[6]キーを押す

アドバイス

- ◆ 通常の状態(HMの0)の内容を、HMの1～6に書き込むことはできませんが、HMの1～6の内容を、通常の状態(HMの0)に書き込むことはできません。
- ◆ 手順2で、ピー音がする前にボタンから指を離すと、押したボタンのHMが呼び出された状態になります。
- ◆ 手順3で、HMの0を呼び出した場合、HM番号は表示されません。
- ◆ オプションのリモコンマイクCMP575Dからは、手順2の書き込み操作を行うことはできません。

スキャン機能を使うには

スキャン機能について	32
スキャンのタイプを変更するには	33
1 MHz内でスキャンするには（1 MHzスキャン）	33
スキャンする速さを変えるには	33
周波数帯の全域をスキャンするには（オールスキャン）	33
指定した範囲をスキャンするには（プログラムスキャン）	34
メモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャン）	35
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには（ブロックメモリースキャン）	35
指定したメモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャンメモリー）	36
トーン周波数/DCSコードをスキャンするには（トーンスケルチスキャン/DCSスキャン）	36

スキャン機能について

- この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。
- この機能には、次の8種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。
- **1 MHzスキャン**
周波数の1 MHz台は越えずにスキャンします。
- **オールスキャン**
バンドの全域をスキャンします。
- **プログラムスキャン**
指定した範囲をスキャンします。
- **メモリースキャン**
メモリーしている周波数をスキャンします。
- **ブロックメモリースキャン**
メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとします。
- **メモリースキャンメモリー**
指定したメモリーをスキャンします。
- **トーンスケルチスキャン**
トーン周波数をスキャンします。トーンが一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。
- **DCSスキャン**
DCSコードをスキャンします。DCSコードが一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。

- スキャンの止まりかたには、次の3種類があります。

- **ポーズスキャンタイプ**

信号を受けると、スキャンは止まります。
信号が無くなるか、信号を受けていても約5秒経過すると、スキャンを再開します。

- **ビジースキャンタイプ**

信号を受けると、信号を受けている間スキャンは止まり続けます。信号が無くなると、スキャンを再開します。

- **ホールドスキャンタイプ**

信号を受けると、スキャンは止まります。また、信号が無くなっても、スキャンは止まり続けます。スキャンを再開するには、CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押します。

アドバイス

- ◆ スキャンする前には、ザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回してください。
- ◆ スキャン中に**[PTT]**スイッチを押すと、スキャンが解除され、送信を行います。
- ◆ スキャン中に、CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、スキャンの方向を変えることができます。
- ◆ スキャンが止まっているときに、CHツマミを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、スキャンを再開させることができます。
- ◆ 1 MHzスキャン、オールスキャン、プログラムスキャンのステップは、周波数ステップの設定と同じです。また、スキャン中にCHツマミを一度押すとスキャンが一時停止し、1 MHz台を変更することができます。再度CHツマミを押すと、スキャンを再開します。(周波数を1 MHzステップで変えるには**P.23**)
- ◆ トーンスケルチ(**P.51**)が設定されている場合、信号を受けるとスキャンする速さが遅くなります。また、トーン周波数が一致した場合のみスキャンが止まり、スケルチが開きます。
- ◆ DCS(**P.51**)が設定されている場合、信号を受けるとスキャンする速さが遅くなります。また、DCSコードが一致した場合のみスキャンが止まり、スケルチが開きます。
- ◆ RFスケルチ機能(**P.42**)が設定されている場合、信号を受けるとスキャンする速さが遅くなります。また、RFスケルチの設定レベル以上の信号を受信した場合のみスキャンが止まり、スケルチが開きません。

スキャンのタイプを変更するには

スキャンのタイプは、次の手順で変更します。

- 1 セットモードにて、セットモード番号を 24 にする (P21)

433000
24Scan PAUSE

- 2 CHツマミを押し、表示をPAUSE からBUSYまたはHOLDにする

PAUSE BUSY HOLD
ポーズスキャン ビジースキャン ホールドスキャン

(ビジースキャンを選んだときは、B が表示されます。ホールドスキャンを選んだときは、H が表示されます。ポーズスキャンを選んだときは、何も表示されません。)

- 3 終了するには、[MY] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、ポーズスキャンに設定されています
- ◆ この設定は、すべてのスキャンに共通です。
- ◆ この設定は、VHFバンド、UHFバンドで共通です。

スキャンする速さを変えるには

スキャンの速さを遅くすることができます。

- 1 セットモードにて、セットモード番号を 25 にする (P21)

433000
25ScanSp HI

- 2 CHツマミを押し、表示をHIからLOWにする
(LOWを選ぶと、スキャンスピードが遅くなります。)

- 3 終了するには、[MY] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、HI に設定されています。
- ◆ この設定は、すべてのスキャンに共通です。
- ◆ VHFバンド、UHFバンドで共通です。
- ◆ この機能を HI に設定した場合、弱い信号を受信したときや、周波数帯を移動するメモリスキャンなどでは、スキャンが止まらないことがあります。このときは、LOW に設定してください。

1 MHz内でスキャンするには (1 MHzスキャン)

その表示されている周波数の 1 MHz台を越えずにスキャンします。レピータの周波数帯をスキャンするときなどに便利です。

- 1 バンドを選び、VFO状態にする

- 2 CHツマミを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、スキャンを始めたい周波数にする

433200
Amateur UHF

- 3 [SCN] キーを押す
(1 MHzスキャンが開始されました。)

- 4 100kHz台以下がスキャンしていることを確かめる

点滅 スキャンします

433000
Amateur UHF

- 5 終了するには、[SCN] キーを押す

周波数帯の全域をスキャンするには (オールスキャン)

バンドの全域をスキャンします。

- 1 バンドを選び、VFO状態にする

- 2 ファンクションモード中に、[SCN] キーを押す

433200 → 433000
Amateur UHF

点滅 スキャンします

(オールスキャンが開始されました。)

- 3 終了するには、[SCN] キーを押す

アドバイス

- ◆ オールスキャン中に再度手順 2 を行くと、1 MHzスキャンになります。
- ◆ バンド区分を無くす機能 (P42) が off に設定されていると、すべての周波数帯に渡ってスキャンします。

指定した範囲をスキャンするには（プログラムスキャン）

スキャンを始める周波数と終わる周波数を指定し、その間をスキャンします。プログラム番号はVHFバンド、UHFバンドに共通で10組あります。各プログラム番号はs（スタート周波数）とe（エンド周波数）が組になっており、その範囲をスキャンします。スタート及びエンド周波数は、メモリーアドレスに登録されている周波数を使います。

■スキャンする範囲を指定・変更するには

1 VFO状態にし、[CAL]キーを押す

2 ファンクションモード中に、[SCN]キーを押す

[F]

M 433000
→ M 433000
PS0s---:e---

3 CHツマミを回し、スキャンを指定するプログラム番号にする

M 433000
PS1s---:e---

4 CHツマミを押し、スキャンを指定するプログラム番号を決定する（スタート周波数のアドレスが点滅に変わります。）

M 433000
PS1s000:e000
点滅

5 CHツマミを回し、スタート周波数のアドレスにする

6 CHツマミを押し、スタート周波数のアドレスを決定する（エンド周波数のアドレスが点滅に変わります。）

M 433000
PS1s001:e000
点滅

7 CHツマミを回し、エンド周波数のアドレスにする

M 433000
PS1s001:e002

8 CHツマミを押し、エンド周波数のアドレスを決定する（ピー音がし、プログラムが登録されました。）

M 433000
PS1s001:e002

9 他のプログラム番号を登録するには、手順3から始める終了するには、[CAL]キーを押す

アドバイス

- ◆ 手順4で、プログラムを消すことができます。CHツマミを押し、アドレスが点滅しているときに、HMボタンの(2) ボタンを押すと、アドレスが「---」の表示になります。この後に、CHツマミを押してください。プログラムを消さないときは、[CAL]キーを押してください。

■スキャンを始めるには

1 VFO状態にし、[CAL]キーを押す

2 ファンクションモード中に、[SCN]キーを押す

[F]

3 CHツマミを回し、スキャンを行うプログラム番号にする

M 433000
PS1s001:e002

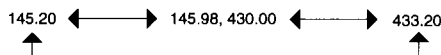
4 [SCN]キーを押す（スキャンが始まります。）

スキャンします
点滅
P1430000
Amateur UHF

アドバイス

- ◆ スキャンは、スタート周波数から、エンド周波数へ行きます。
- ◆ 手順3で、[F]を押している間、表示されているメモリーアドレスに書き込まれている周波数を確認することができます。キーを押す度に、スタート周波数とエンド周波数が切り換わります。
- ◆ プログラム番号の指定されているメモリーアドレスの周波数を変更したときは、変更された周波数でスキャンします。
- ◆ 周波数帯の異なる範囲を指定した場合、バンド区分を無くす機能(42)の設定に関わらず、バンドを越えてスキャンします。

動作例：145.20MHzと433.20MHzをプログラムした場合



メモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャン）

メモリーしている周波数をすべてスキャンします。

■スキャン前の準備

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 26 にする

433000
26. Mblk off

- 2 CHツマミを押し、表示を off にする
off: すべてのメモリーをスキャン
on: ブロックのメモリーをスキャン

- 3 [MY] キーを押し、VFOに戻る

アドバイス

- ◆初期状態では、off に設定されています。
初期状態のときには、この手順は省略できます。

■スキャンするには

- 1 VFO状態にする

- 2 [VM] キーを押し、メモリーモードにする

M01433200

- 3 [SCN] キーを押す
(オールメモリースキャンが開始されました。)

点滅
M01433200

スキャンします

- 4 終了するには、[SCN] キーを押す
(メモリーモードに戻ります。)

アドバイス

- ◆手順2で、メモリーがすべて空のときは、ブッ音がします。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには（ブロックメモリースキャン）

メモリースキャンをブロック単位で行います。
ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとし、次のようにわかれています。

ブロック番号	メモリーアドレス	ブロック番号	メモリーアドレス
0	00~09	10	100~109
1	10~19	11	110~119
2	20~29	12	120~129
3	30~39	13	130~139
4	40~49	14	140~149
5	50~59	15	150~159
6	60~69	16	160~169
7	70~79	17	170~179
8	80~89		
9	90~99		

■スキャン前の準備

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 26 にする

433200
26. Mblk on

- 2 CHツマミを押し、表示をoffからonにする
off: すべてのメモリーをスキャン
on: ブロックのメモリーをスキャン

- 3 [MY] キーを押し、VFOに戻る

■スキャンするには

- 1 VFO状態にする

- 2 [VM] キーを押し、メモリーモードにする

- 3 CHツマミを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、
スキャンしたいブロックのメモリーを呼び出す

- 4 [SCN] キーを押す
(ブロックメモリースキャンが開始されました。)

点滅
M01433200

スキャンします

- 5 終了するには、[SCN] キーを押す
(メモリーモードに戻ります。)

アドバイス

- ◆スキャン中にCHツマミを押すと、スキャンが停止します。その間にCHツマミを回し、ブロックを変更できます。スキャンを始める時は、再度CHツマミを押してください。

指定したメモリー周波数をスキャンするには（メモリスキャンメモリー）

スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

■アドレスを指定するには

1 VFO状態にする

2 **[VM]** キーを押し、メモリーモードにする

3 CHツマミを回し、指定したいアドレスにする

4 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 22 にする

MO:433200
22 MSM off

5 CHツマミを押し、表示をoffからonにする
(Mの上に ▼ が表示されます)

MO:433200
22 MSM on

6 **[MY]** キーを押し、メモリーモードに戻る

7 他のメモリーを続けて指定するときは、手順3 より始める
VFO状態にするには、**[VM]** キーを押す

■スキャンするには

1 VFO状態にする

2 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 22 にする

3 CHツマミを押し、表示をoffからonにする
(▼ が表示されます)

4 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

5 **[VM]** キーを押し、メモリーモードにする

6 **[SCN]** キーを押す
(メモリスキャンメモリーが
開始されました。)

点滅
MO:433200
スキャンします

7 終了するには、**[SCN]** キーを押す
(メモリーモードに戻ります。)

アドバイス

◆ 指定を解除するには、手順5 でCHツマミを押し、▼ の表示を消してください。

アドバイス

◆ メモリスキャンメモリーは、メモリスキャン、ブロックメモリスキャンで行うことができます。

トーン周波数/DCSコードをスキャンするには（トーンスケルチスキャン/DCSスキャン）

受信周波数を変えずに、トーン周波数またはDCSコードをスキャンします。

1 バンドを選ぶ

2 スキャンを行う周波数にする

3 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 04 にする

433200
04Signal off

4 CHツマミを押し、表示をoffからTSQまたはDCSにする
TSQ：トーンスケルチスキャンを行うとき
DCS：DCSスキャンを行うとき

5 CHツマミを回し、セットモード番号を
トーンスケルチスキャンを行うときは、05にする
DCSスキャンを行うときは、06にする

(トーンスケルチスキャン)

433200 TSQ
05. TONE 885

(DCSスキャン)

433200 DCS
06. DCS 023

6 **[SCN]** キーを押す
(スキャンが開始されました。)
(トーンスケルチスキャン)

433200 TSQ
05. TONE 885
スキャンします

(DCSスキャン)

433200 DCS
06. DCS 023
スキャンします

7 相手の局とトーン周波数またはDCSコードが一致すると、スキャンが停止し、音声が届きます。

8 終了するには、**[SCN]** キーを押す
(セットモードに戻ります。)

アドバイス

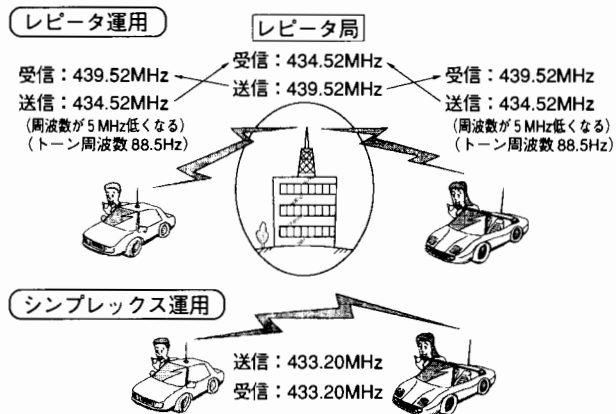
◆ 手順3 で表示が、TSQ以外のときはトーンスケルチスキャンは行いません。また、DCS以外のときはDCSスキャンは行いません。
◆ このスキャンは、メモリー周波数、コール周波数でも行うことができます。手順2 でメモリー周波数またはコール周波数を呼び出した状態にし、手順3以降を行ってください。

レピータを使うには

レピータ運用について	38
オートレピータモードを解除するには	38
レピータを使うには（オートレピータモード）	38
手動でレピータモードを設定するには	38
レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには（リバース）	39
レピータ運用のオフセット周波数、トーン周波数を変えるには	39
スプリットモードを設定するには	40

レピータ運用について

- レピータ局(自動中継局)を使用して交信を行うことをレピータ運用といいます。また、この運用ができる状態にあるときを「レピータモード」といいます。
- レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信することができます。
- レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差を「オフセット周波数」といいます。430MHz帯では、オフセット周波数は5MHzです。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数がオフセット周波数分だけ低くなります。
- レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5Hz)があるときに使用できます。
- 本機をレピータモード(T表示)にして送信すると、トーン信号が出ます。このときのトーン周波数は、セットモード05で設定した周波数になります。レピータ運用のときは、トーン周波数を88.5Hzに設定してください。よく使うレピータ局は、トーン周波数と一緒にメモリーしておくことをおすすめします。



オートレピータモードを解除するには

- 1 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 27 にする

433000
27.オートRPT on

- 2 CHツマミを押し、表示をonからoffにする

- 3 [MY] キーを押し、終了する

アドバイス

- ◆ 初期状態では、on に設定されています。
- ◆ この機能は、430MHz帯のみの機能です。

レピータを使うには (オートレピータモード)

オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数(439MHz台)に合わせると、自動的にレピータモードを設定する機能です。

- 1 VFO状態にし、UHFバンドを選ぶ
- 2 レピータ局の周波数に合わせる
- 3 表示部に T とー が表示されているのを確かめる

表示
439520
Amateur RPTd

- 4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ
- 5 送信するには、[PTT] スイッチを押しながら、マイクに向かって話す

手動でレピータモードを設定するには

手動でレピータモードの設定および解除ができます。また、この機能を使うと、受信周波数からオフセット周波数分、送信周波数をシフトさせることができます。

- 1 VFO状態にし、UHFバンドを選ぶ

- 2 CHツマミを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、レピータ局の周波数に合わせる

- 3 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 03 にする

439520
03. RPT -

CHツマミを押し、レピータモード(シフト方向)の設定を行う

マイナスシフトの設定

39520
PT -
-表示

プラスシフトの設定

39520
PT +
+表示

設定なし

39520
PT off

アドバイス

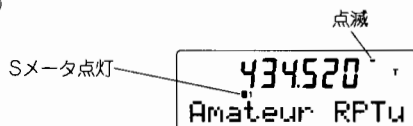
- ◆ オフセットした周波数が、アマチュアバンド外になる場合は、送信できません。このとき、[PTT] スイッチを押すと OFF が表示されます。

レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには (リバース)

レピータモードのとき、リモコンマイクの **[SQL OFF]** キーを押すと、一時的に受信周波数がオフセット周波数分低くなります。したがって、この機能を使って、相手局の直接波(レピータを介さない信号)が受信できるかどうか確かめることができます。もし、直接波が受信できるときは、レピータを使わない交信を試してみてください。

- 1 CHツマミを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、レピータ局の周波数に合わせ、レピータモードにする

- 2 リモコンマイクの **[SQL OFF]** キーを一度押す
(表示部の周波数がオフセット周波数分低くなり、スケルチが開きます。)



- 3 終了するには、もう一度リモコンマイクの **[SQL OFF]** キーを押す

アドバイス

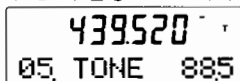
- ◆ 手順2で、リバースした周波数がアマチュアバンド外になる場合は OFF 表示が出ます。そして、リバースする前の周波数でスケルチが開きます。

レピータ運用のオフセット周波数、トーン周波数を変えるには

初期状態では、トーン周波数は88.5Hz、オフセット周波数は430MHz帯が5MHz、144MHz帯が600kHzに設定されています。本機は、将来これ以外のトーン周波数やオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するため、この設定を変更することができます。

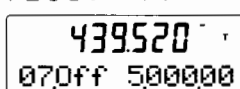
- 1 CHツマミを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、レピータ局の周波数に合わせ、レピータモードにする

- 2 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 05 にする



- 3 CHツマミを押した後、CHツマミを回しトーン周波数を選び、もう一度CHツマミを押し、トーン周波数を設定する

- 4 CHツマミを回し、セットモード番号を 07 にする



- 5 CHツマミを押した後、CHツマミを回しオフセット周波数を選び、もう一度CHツマミを押し、オフセット周波数を設定する

- 6 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 本機は、標準で39波のトーンエンコーダーを内蔵しています。
トーン信号の周波数 (Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5
85.4	88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5
107.2	110.9	114.8	118.8	123.0	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7	162.2	167.9
173.8	179.9	186.2	192.8	203.5	210.7	218.1
225.7	233.6	241.8	250.3			

計39種類

- ◆ トーン周波数は、VFO状態、メモリー周波数、コール周波数、それぞれ別々に設定することができます。手順1で、変更したいVFO状態、メモリー周波数、またはコール周波数を呼び出してください。

スプリットモードを設定するには

各メモリーアドレスおよび各バンドのコール周波数には、オフセット周波数のかわりに、送信周波数と受信周波数を別々に書き込むことができます。これをスプリットモードといいます。スプリットモードを設定すると、従来の送信/受信周波数は、受信専用の周波数になります。送信周波数は、セットモードで送信専用の周波数を書き込みます。

1 VFO状態にする

7 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

2 スプリットモードを設定したいコール周波数、またはメモリーアドレスにする (この周波数が受信周波数になります。)

8 [PTT] スイッチを押し、設定した周波数で送信することを確認める

Mo1433200

Mo1433200

→

Mo1433440

3 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 08 にする

4 CHツマミを押し、表示をoffからonにする (Xが表示されます。)

Mo1433200
08 Split off

→

Mo1433200
08 Split on

5 CHツマミを回し、セットモード番号を 07 にする

6 CHツマミを押した後、CHツマミを回し送信周波数を設定し、もう一度CHツマミを押す

Mo1433200
07SF43320000

→

Mo1433200
07SF43344000

アドバイス

- ◆ スプリットモードは、各バンドのコール周波数、各メモリーアドレスに設定することができます。VFO状態では、設定することはできません。
- ◆ 呼び出したメモリー、およびコール周波数のままVFO状態へ戻ると、スプリットモードは解除されます。
- ◆ スプリットモードを解除すると、送信周波数は、受信周波数と同一になります。
- ◆ スプリットモードとレピータモードを同時に設定することはできません。後から設定した方が有効になり、もう一方は自動的に解除されます。
- ◆ 手順6で、バンドの異なる周波数を設定できます。これにより、バンド間で「たすきがけ運用」ができます。
- ◆ 手順6で、バンドを変更する場合は、[BAND] キーを押してください。

こんな使いかたもできます

バンドの区分を無くすには	42
一定以上の強い信号だけを受信したいとき (RFスケルチ)	42
間違って送信しないためには (PTTロック)	42
表示部の明るさを変えるには	42
ビープ音の大きさを変えるには	43
電源を自動的に切るには (オートパワーオフ)	43
送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)	43
電源電圧を表示するには	43
S/TXメータをモジュレーションメータにするには	44
バンドスコープ機能を使うには	44

バンドの区分を無くすには

CHツマミや、リモコンマイクの **[UP]** または **[DOWN]** キーを使って周波数を変更するとき、初期状態では選んだバンドの範囲でしかできません。しかし、この機能を使うと、バンドの区分を無くすことができます。例えば、UHFバンドで430MHz帯を選び、CHツマミを回すか **[UP]** または **[DOWN]** キーを押し、周波数がバンドの端にくると、周波数は144MHz帯に移ります。

- 1 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 21 にする

433000
21. Band on

- 2 CHツマミを押し、表示をonからoffに変える

433000
21. Band off

- 3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、on に設定されています。
- ◆ この機能を解除するには、手順2で表示を on にしてください。

間違って送信しないためには (PTTロック)

間違って送信しないように、**[PTT]** スイッチの操作を禁止することができます。

- 1 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 14 にする

433000
14PTTロック off

- 2 CHツマミを押し、表示をoffからonに変える

433000
14PTTロック on

- 3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、off に設定されています。
- ◆ この機能を解除するには、手順2で表示を off にしてください。
- ◆ この機能が on に設定されているときに **[PTT]** スイッチを押すと、PL が表示されます。

一定以上の強い信号だけを受信したいとき (RFスケルチ)

入力信号(RF)の強さ、つまりSメーターの振れが一定のレベルを超えたとき、スケルチが開く機能です。

- 1 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 20 にする

433000
20RF-SQL off

- 2 CHツマミを押し、表示を off から変える

off → 3 → 5 → 7 → 9

- 3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ Sメーターの振れる割り合いと、設定した数字の関係は、次のようになります。

3	■1■■	7	■1■■■5■■■■■7■■
5	■1■■■5■	9	■1■■■5■■■■■7■■■■■■9■

- ◆ 初期状態では、off に設定されています。
- ◆ この機能を解除するには、手順2で表示を off にしてください。

表示部の明るさを変えるには

表示部の明るさを4段階に変えることができます。

- 1 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 19 にする

433000
19. Lamp 2

- 2 CHツマミを押し、表示を 2 から変える
(3を選ぶと、一番明るくなります。offを選ぶとランプは消えます。)

2 → 3 → off → 1

- 3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、2 に設定されています。

ビープ音の大きさを変えるには

設定が完了したときや、操作を間違ったときなどに鳴るビープ音の大きさを変えたり、消すことができます。

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 18 にする

433000
18. Beep 2

- 3 CHツマミを押し、表示を 2 から変える
(3 を選ぶと、ビープ音は一番大きくなります。off を選ぶとビープ音は出ません。)

2 → 3 → off → 1

- 4 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、2 に設定されています。

送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)

送信が連続して一定の時間以上続いたとき、自動的に送信を停止させることができます。送信が自動的に停止するとき、警告音が鳴ります。

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 16 にする

433000
16. TOT off

- 2 CHツマミを押し、表示を off から変える

オフ 3分 5分 15分
off → 3 → 5 → 15

- 3 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、off に設定されています。
◆ 長時間の誤送信を防ぐため、なるべく off 以外に設定してください。

電源を自動的に切るには (オートパワーオフ)

設定した時間、送信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。この機能を使うと、バッテリーから直接電源を取っている場合、電源の切り忘れによるバッテリーの過放電を防止することができます。

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 15 にする

433000
15. APO off

- 2 CHツマミを押し、表示を off から変える

オフ 3時間 6時間 9時間
off → 3 → 6 → 9

- 3 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、off に設定されています。
◆ 手順 2 で off 以外に設定すると、表示部に APO が点灯します。

電源電圧を表示するには

表示部下段の表示をタグ表示から電源電圧表示または表示無しに変えることができます。

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 13 にする

433000
13. バッテリ TAG

- 2 CHツマミを押し、表示を TAG からVOLまたは off に変える

TAG : メモリータグなどタグが表示されます。
VOL : 電源電圧を表示します。
off : なんにも表示しません。

- 3 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、TAG に設定されています。

S/TXメータをモジュレーションメータにするには

S/TXメータを、入力された変調量に合わせてメータが変化するモジュレーションメータに切り換えることができます。

- 1 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 28 にする

433000
28. TXメ-タ PWR

- 2 CHツマミを押し、表示を PWR から MOD に変える

433000
28. TXメ-タ MOD

- 3 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ 初期状態では、PWR に設定されています。
- ◆ この機能を解除するには、手順 2 で表示を PWR にしてください。

バンドスコープ機能を使うには

表示されている周波数を中心に、±5 周波数ステップ分づつ周波数をスキャンします。従って、周波数ステップを 20kHz に設定しているときは、±100kHz の間をスキャンします。バンドスコープ中に CH ツマミや [UP] または [DOWN] キーを使って中心の周波数を変化させることができます。

- 1 VFO状態にし、中心となる周波数を設定する

- 2 ファンクションモード中に、CHツマミを押す
(バンドスコープが始まり、カーソルがスキャンします。)

433200
|
カーソル

- 3 信号が見つかったら、CHツマミ、[PTT] スイッチまたは [SQL OFF] キーを押し、バンドスコープを一時停止する

433200
| ■
点減 信号

- 4 カーソルを CHツマミ、[UP] または [DOWN] キーを使って移動する

433240
| ■
カーソル

- 5 バンドスコープを再開するには、CHツマミを押す

VFO状態に戻るには、[VM] キーを押す

アドバイス

- ◆ 手順 2 で、CHツマミ、[UP] または [DOWN] キーを使って、周波数の中心を変更できます。また、カーソルがスキャンする方向も変えることができます。
- ◆ 手順 5 で、バンドスコープを再開すると、手順 4 で表示している周波数が中心になります。
- ◆ コール周波数やメモリーを表示して、この動作を行えます。その時、表示されていた周波数で VFO 状態になり、バンドスコープを開始します。
- ◆ バンドの区分機能を off にしていても、中心の周波数はバンドを越えることはできません。
- ◆ カーソルがスキャンしているときは、音声は出力されません。

グループで使うには

DTMFを使って	46
自分の個別コードを設定するには	46
話したい相手のコードを設定するには	47
ページングで呼び出すには	47
グループコードを設定するには	47
ページングで待ち受けするには	48
コードスケルチ・ページングが出るまでの時間を遅らせるには	48
コードスケルチを使うには	48
DTMFを使うには	49
DTMFコードをメモリーするには	49
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	49
メモリーしたDTMFコードを書き換えるには	50
メモリーしたDTMFコードを送出するには	50
トーンスケルチ・DCSを使って	51
トーンスケルチ・DCSを使うには	51
トーン周波数を変えるには	51
DCSコードを変えるには	52

DTMFを使って

本機は、DTMFを装着しており、DTMF信号を使って、特定の人や、グループを呼び出すことができます。このときに、ページングコードやコードスケルチのコードを呼び出す人に合わせます。

コードスケルチとは

- 話したい人のコードに合わせ、呼び出します。呼び出された人は、コードスケルチが開いて音声が届きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

ページングとは

- 話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。呼び出された人は、表示部に呼び出した人の個別コードが表示され、アラームが鳴ります。このときに、コードメモリーのCPに、相手の個別コードが書き込まれます。
- グループを呼び出すときは、グループコードに合わせ、呼び出します。呼び出されたグループの人達は、表示部にグループコードが表示され、アラームが鳴ります。このときに、コードメモリーのCPに、相手の個別コードが書き込まれます。

個別コードで呼び出し

個別コード C0 111

433200
10Pa9 C1 222

CP 111

個別コード
C0 222

グループコードで呼び出し

個別コード C0 111

グループコード C2 050

433200
10Pa9 C2-050

C2-050

グループコード
C2 050
個別コード
C0 222

C2-050

グループコード
C2 050
個別コード
C0 333

C2-050

グループコード
C2 050
個別コード
C0 444

自分の個別コードを設定するには

話したい相手呼び出したり、また相手から呼び出されるときに、自分の個別コード(自局コード)が必要です。自局コードは、専用のメモリーアドレスC0にメモリーします。

- 1 セットモード (P21)にて、セットモード番号を10にする

433000
10Pa9 C0-000

(初期状態では、自局コードは000になっています。)

- 2 CHツマミを押し、一桁目の入力状態にする

433000
10Pa9 C0- ---

点滅

- 3 CHツマミを回し、一桁目を選び、CHツマミを押す

433000
10Pa9 C0-1 --

点滅

(二桁目の入力状態になります。)

- 4 手順2、3を繰り返し、2桁目、3桁目のコードを入力する
(3桁目が入力された時点で、コードが設定されます。)

433000
10Pa9 C0-111

- 5 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

話したい相手のコードを設定するには

話したい相手呼び出すために、呼び出したい人の自局コード(相手局コード)を専用メモリーC1～C8に設定する必要があります。

- 1 セットモード (P21)にて、セットモード番号を 10 にする

433000
10Pa9 C0-111

(前回、セットモードで表示した、コードになります。)

- 2 [VM] キーを何度か押し、設定したい相手局コードのメモリーアドレスにする

433000
10Pa9 C1 000

- 3 CHツマミを押し、一桁目の入力状態にする

433000
10Pa9 C1 ---

- 4 CHツマミを回し、一桁目を選び、CHツマミを押す

- 5 手順 3、4 を繰り返し、2 桁目、3 桁目のコードを入力する
(3 桁目が入力された時点で、コードが設定されます。)

- 6 他のコードを入力する時は、手順 2 より始める
[MY] キーを押し、VFO状態に戻る

グループコードを設定するには

グループ内でページングやコードスケルチを使うときには、相手局コード(C1～C8)からコードを選び、グループコードに設定する必要があります。この設定したグループコードを使いグループの人を呼び出したり、グループ内での呼び出しを待ちます。

- 1 セットモード (P21)にて、セットモード番号を 10 にする
(前回、セットモードで表示した、コードになります。)

433000
10Pa9 C2 050

- 2 [VM] キーを何度か押し、グループコードを設定したいメモリーアドレスにする

- 3 [BAND] キーを押し、グループコードを設定する

433000
10Pa9 C2-050

- 4 他のコードをグループコードに設定する時は、手順 2 より始める
[MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

◆グループコードが設定されていない場合、そのコードを受信しても呼び出されません。

◆C0 および CP は、グループコードを設定することができません。

ページングで呼び出すには

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人、またはグループに合わせる

- 2 セットモード (P21)にて、セットモード番号を 10 にする

433200
10Pa9 C2-050

(前回、セットモードで表示した、コードになります。)

- 3 [VM] キーを何度か押し、呼び出したい相手局コードのメモリーアドレスにする

433200
10Pa9 C1 222

- 4 CHツマミを回し、セットモード番号を 09 にする

433200
09Paging off

- 5 CHツマミを押し、表示を off から PAG にする

433200
09Paging PAG

- 6 [PTT] スイッチを押し、送信する

- 7 相手が答えると呼出音が鳴る

(表示部の PAG が点灯から点滅に変わり、相手の個別コードが表示されます。)

CP 222 PAG

(呼び出した人の自局コードは、メモリーアドレスCPに記憶されます。)

アドバイス

◆この機能を解除するには、手順 5 で表示を off にします。

◆手順 6 で送出されるコードは、セットモード番号の 10 にしたときに表示されるコードです。

◆手順 6 でグループコードを送出すると、手順 7 で相手は同じコードで答えてきます。

◆手順 7 の後、[PTT] スイッチを押すと、相手のコードが送出されます。

◆手順 7 で記憶されたメモリーアドレスCPは、電源を切っても記憶しています。したがって、次回からは、このアドレスを使っても相手の人を呼び出せます。

◆手順 7 で、相手の個別コードが完全に受信できなかったときは、C の代わりに E が表示されます。

ページングで待ち受けするには

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人、またはグループに合わせる
- 2 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 09 にする

- 3 CHツマミを押し、表示を off から PAG にする

433200
09Paging off

433200 PAG
09Paging PAG

- 4 相手から呼ばれると、呼出音が鳴る
(表示部の PAG が点灯から点滅に変わり、相手の個別コードまたはグループコードが表示されます。)

自局コードで呼ばれたとき

CP 222 PAG

グループコードで呼ばれたとき

C2-050 PAG

(呼び出した人の自局コードは、メモリーアドレス CP に記憶されます。)

- 5 [PTT] スイッチを押し、応答する

アドバイス

- ◆ この機能を解除するには、手順 3 で表示を off にします。
- ◆ 手順 6 で、相手の個別コードが完全に受信できなかったときは、C の代わりに E が表示されます。

コードスケルチを使うには

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人に合わせる
- 2 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 10 にする

- 3 [VM] キーを何度か押し、呼び出したい相手と同じグループコードのメモリーアドレスにする

433200
10Pag C3-456

- 4 CHツマミを回し、セットモード番号を 09 にする

- 5 CHツマミを押し、表示を CSQ にする

433200 CSQ
09Paging CSQ

- 6 [PTT] スイッチを押し、送信する
(相手が同じコードを送信すると、コードスケルチが開き、音声が聞こえます。)

アドバイス

- ◆ この機能を解除するには、手順 5 で表示を off にします。
- ◆ 前回と同じコードを使う時は、手順 2 と 3 は省略できます。

コードスケルチ・ページングが出るまでの時間を遅らせるには

レピータを使ってページング信号を送るとき、信号の最初が切れて、正常な呼び出しが出ないことがあります。これを防ぐために、本機は約 250 ミリ秒信号が出るまでの時間を遅らせています(初期状態)。この時間を約 450 ミリ秒または約 850 ミリ秒に変更できます。

- 1 セットモード (D21) にて、セットモード番号を 11 にする

433000
11Paging 250

- 2 CHツマミを押し、表示を 250 から変える

250 ミリ秒 450 ミリ秒 850 ミリ秒
250 → 450 → 850

- 3 [MY] キーを押し、VFO 状態に戻る

DTMFを使うには

本機では、DTMF信号の送出方法が2通りあります。
第1の方法は、PTTスイッチを押しながら、オプションのリモコンマイクCMP575Dの16キーを押す方法です。
第2の方法は、DTMFコードをメモリーし、そのコードを送出する方法です。

■DTMFコードとメモリーについて

- 最大15桁のDTMF信号を、DTMF専用メモリーにメモリーできます。
- DTMF専用メモリーは、VHFバンドとUHFバンド共通で10個あります。
- 1個のDTMF専用メモリーに、最大15桁まで書き込みます。
- 15桁のコードの内、7桁が表示されます。

433200
DT0*1234567*

上位の桁で表示
されていないもの
があります。

下位の桁で表示
されていないもの
があります。

PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには

オプションのリモコンマイクCMP575Dを使用すると、送信しながらDTMF信号を直接送出することができます。

1 PTTスイッチを押す



2 手順1の状態のまま、0～9、*、#、A～Dのキーを押す

アドバイス

- ◆ DTMF信号は、キーを押している間だけ送出されます。

DTMFコードをメモリーするには

1 ファンクションモード中に、[CAL]キーを押す

F

2 CHツマミを回し、メモリーするアドレスを選ぶ (アドレスは、DT0～DT9です。)

433200
DT0 -----

3 CHツマミを押し、アドレスを決定する (1桁目でカーソルが点滅し、入力待ちになります。)

433200
DT0 ■-----
カーソル点滅

4 CHツマミを回し、1桁目を決めた後、CHツマミを押す (2桁目の入力待ちになります。)

433200
DT0 1■-----
点滅

(HMボタンの[2] ボタンを押すと、カーソルの前の桁を消去します。)

5 手順4を繰り返し、2桁目から15桁目のコードを入力する (15桁目のコードが入力された時点でコードが設定され、1桁目から7桁目が表示されます。)

6 [CAL]または[V/M]キーを押し、もとの表示に戻る

アドバイス

- ◆ 入力するコードが15桁より短いときは、ファンクションモードにして、[V/M]キーを押します。それまでのコードが設定され、再び1桁目から表示されます。このとき、手順6で点滅していた桁も設定されます。
- ◆ メモリーしたDTMFコードを確認するには、手順1、2を行います。次に、HMボタンの[1]、[2]を押すと、内容を確認することができます。このとき、HMボタンの[1]を押すと、カーソルは上位の桁へ移動します。また、[2]を押すと、カーソルは下位の桁へ移動します。
- ◆ オプションのCMP575Dを使うと手順4で、コードが直接入力できます。ただし、CMP575Dからは、#は入力できません。
- ◆ DTMFコードが表示されているときに、PTTスイッチを押すと、送信をしないで、DTMFコードを聞くことができます。これをDTMFモニターと呼びます。

メモリーしたDTMFコードを書き換えるには

DTMF専用メモリーに入っているDTMF信号を変更することができます。

- 1 ファンクションモード中に、**[CAL]** キーを押す

F

- 2 CHツマミを回し、書き換えるアドレスを選ぶ

- 3 CHツマミを押し、アドレスを決定する
(カーソルが↑桁目で点滅します。)

433200
DT0 1234567*

- 4 HMボタンの **(1)** または **(3)** を押し、変更したい桁にカーソルを移動します。

433200
DT0 1234567*

点滅

(HMボタンの **(2)** ボタンを押すと、カーソルの前の桁を消去します。)

- 5 CHツマミを回し、コードを書き換え、CHツマミを押す。
(カーソルが次の桁に移動します。)

433200
DT0 12345A**

- 6 他の桁を修正する時は、手順4、5を繰り返す

書き換えを終わるには、ファンクションモード中に **[VM]** キーを押す

アドバイス

- ◆ コードをすべて消去する時は、手順4にて、すべての桁が一になるまでHMボタンの **(2)** ボタンを押してください。

メモリーしたDTMFコードを送出するには

- 1 バンドを選び、DTMFコードを送出する周波数にする

- 2 ファンクションモード中に、**[CAL]** キーを押す

F

- 3 CHツマミを回し、送出手のコードのアドレスを選ぶ

433200
DT0 1234567*

- 4 **[CAL]** または **[VM]** キーを押し、もとの表示に戻る

- 5 **[PTT]** スイッチを押しながら、**[SQL OFF]** キーを押す
(DTMFコードが送出されます。)

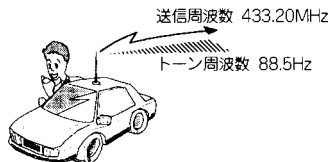
アドバイス

- ◆ 同じコードを送出するときは、手順2～4を行う必要はありません。
- ◆ 送出手のコードのアドレスを変更するときは、手順3で送出手のコードのアドレスを変更してください。

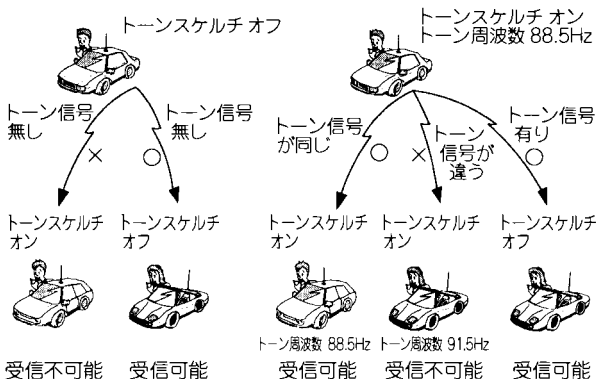
トーンスケルチ・DCSを使って

本機は、トーンスケルチ装置を装着しており、送信したときにトーン信号が同時に出来ます。これにより、トーンエンコーダーとトーンスケルチ、DCS(デジタルコードスケルチ)が使えます。

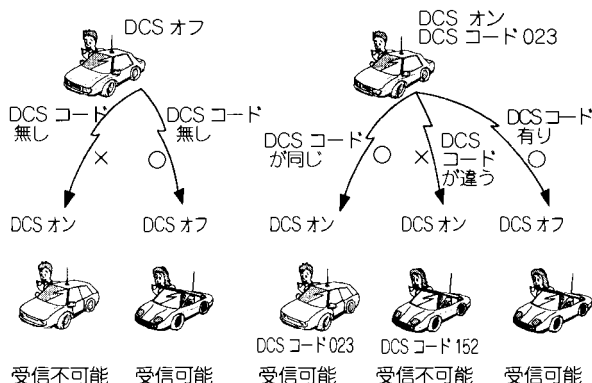
- トーンエンコーダーは、送信するときにトーン信号が出来ます。



- トーンスケルチは、送信するときにトーン信号が出来ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じでないと音声が出来ません。



- DCSコードは、トーンスケルチと同様に、送信するときにDCSコード信号が出来ます。また、受信するときに、自分と相手のDCSコード信号が同じでないと音声が出来ません。



トーンスケルチ・DCSを使うには

- 1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる

- 2 セットモード (P21)にて、セットモード番号を 04 にする

433200
04Signal off

- 3 CHツマミを押し、表示をoff から変える

off → T → TSQ → DCS

トーンエンコーダーを使うには、表示を T にする
トーンスケルチを使うには、表示を TSQ にする
DCSを使うには、表示を DCS にする

- 4 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ DCS は、レピータモード (P38) では使用できません。

トーン周波数を変えるには

- 1 セットモード (P21)にて、セットモード番号を 05 にする

433000
05. TONE 88.5

- 2 CHツマミを押し、CHツマミを回し、トーン周波数を変える

433000
05. TONE 91.5

- 3 CHツマミを押し、トーン周波数を決める

- 4 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆ トーン信号の周波数 (Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5
85.4	88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5
107.2	110.9	114.8	118.8	123.0	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7	162.2	167.9
173.8	179.9	186.2	192.8	203.5	210.7	218.1
225.7	233.6	241.8	250.3			

計39種類

- ◆ 初期状態は88.5Hzに設定されています。
- ◆ トーン周波数は、VFO状態、メモリー周波数、コール周波数、それぞれ別々に設定することができます。手順2で、変更したいVFO状態、メモリー周波数、またはコール周波数を呼び出してください。

DCSコードを変えるには

- 1 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 06 にする



- 2 CHツマミを押した後、CHツマミを回し、トーン周波数を変える



- 3 CHツマミを押し、トーン周波数を決める

- 4 [MY] キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

◆ DCSコード

023	025	026	031	032	036	043
047	051	053	054	065	071	072
073	074	114	115	116	122	125
131	132	134	143	145	152	155
156	162	165	172	174	205	212
223	225	226	243	244	245	246
251	252	255	261	263	265	266
271	274	306	311	315	325	331
332	343	346	351	356	364	365
371	411	412	413	423	431	432
445	446	452	454	455	462	464
465	466	503	506	516	523	526
532	546	565	606	612	624	627
631	632	654	662	664	703	712
723	731	732	734	743	754	

計104種類

- ◆ 初期状態は023に設定されています。
- ◆ トーン周波数は、VFO状態、メモリー周波数、コール周波数、それぞれ別々に設定することができます。手順2で、変更したいVFO状態、メモリー周波数、またはコール周波数を呼び出してください。

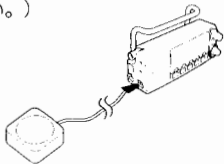
GPS機能を使うには

GPSレシーバー を使って	54
相手の人に情報を送るには（ビーコン）	54
ビーコンの送出周期を変えるには	54
GPSメニューについて	55
自局情報表示について	55
自局の速度および絶対進行方向を表示するには	56
自局のグリッドスクエアロケータおよび高度を表示するには	56
自局の情報源を選択するには	56
自局の緯度と経度を表示するには	56
衛星からの信号をメモリーするには（位置メモリー）	57
緯度・経度のデータを修正するには	57
相手局情報表示について	58
相手局の距離および方向を表示するには	58
相手局の緯度と経度を表示するには	58
相手局のグリッドスクエアロケータおよび速度を表示するには	59
相手局からの信号を位置メモリーにメモリーするには	59
相手局の情報源を選択するには	59
位置メモリーのタグを変更するには（位置メモリータグ編集）	60
近距離警報を設定するには	60
メッセージ・コールサイン表示について	61
相手局のメッセージを表示するには	61
相手局のコールサインを表示するには	61
自局のメッセージを表示するには	62
自局のメッセージ・コールサインを入力・編集するには	62
自局のコールサインを表示するには	62
時刻を表示するには	63
GPSをグループで使うには	63
パソコンと接続するには	64
コマンドの説明	64
GPS端子・SER（シリアル）端子について	64

GPSレシーバー を使って

本機は、オプションのGPSレシーバーGPS575を取り付けることで、GPS (Global Positioning System: 全世界測位システム)を使うことができます。GPSレシーバーにより、GPS用の人工衛星(以下、衛星)からの信号を受けることで、自分の位置(緯度、経度、高度)や時刻(JST: 日本標準時)を知ることができます。本機では、話す相手の人に、これらのデータを送ることや、また相手の人のデータを受け取ることができます。したがって、自分の位置を相手の人に教えたり、また相手の人の位置を知ることができます。また、これらのデータを使ってお互いの相対位置や距離を知ることができます。ただし、これらの情報は、受信できる衛星の数により、正確に表示されないときもあります。

- 1 GPSレシーバーのコネクターと本機を接続する
(GPSレシーバーと本機を接続する前には、必ず本機の電源を切ってください。)



- 2 運転の支障にならない場所にGPSレシーバーを設置する
(GPSレシーバーは、衛星からの信号が受けやすい、上方の視界がよい場所(トランク、ルーフ、ダッシュボードのうえ等)に取り付けてください。また、GPSレシーバーと無線のアンテナは1m以上離れてご使用ください。誤動作の原因になります。)

- 3 本機の電源を入れる

- 4 周波数を相手の人に合わせ、セットモード(P21)にて、セットモード番号を29にする

43 1000
29GPSキ/W off

- 5 CHツマミを押し、表示をoffからonにする
(GPSマークが点滅しているときは、GPS機能のウォームアップ中または受信している衛星の数が2個以下のときです。)

点灯
43 1000
29GPSキ/W on

- 6 [MY]キーを押し、VFO状態に戻る
(GPS機能の情報が、表示部の下段に出ます。)

43 1000
自 00km/h 00°↑

アドバイス

- ◆GPS機能をオンにすることで、相手の人から情報を受け取ることができます。
- ◆手順5において、表示を「GPS off」から「GPS ヒョウジオフ」にしても、GPS機能はオンのままです。しかし、表示部の下段にGPSの情報は表示されません。この時は、通常のタグが表示されます。
- ◆手順6において、初期状態では、自局情報(自分の無線機の情報)の速度と方向が表示されます。
- ◆本機が扱うことのできる位置データは、次の範囲です。
北緯: 20° 00' 00" ~ 49° 59' 59"
東経: 120° 00' 00" ~ 149° 00' 00"

相手の人に情報を送るには (ビーコン)

上記の手順(GPS表示点灯)により、自局の情報を表示したり、相手の人(以下、相手局)の情報を受けることができますようになります。相手局に自局の情報(位置、メッセージ、コールサイン等)を送るためには、ビーコン機能をオンにする必要があります。ビーコン機能をオンにすると、初期設定では30秒毎に相手局に自局の情報を送ります。

- 1 セットモード(P21)にて、セットモード番号を30にする

43 1000
30Beacon off

- 2 CHツマミを押し、表示をoffからonに変える

43 1000
30Beacon on

- 3 [MY]キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆初期状態では、offに設定されています。
- ◆[PTT]スイッチを押して、送信している周はビーコン機能による送信は行いません。
- ◆ビーコン機能により送信している周は、[PTT]スイッチを押しても送信は行いません。
- ◆受信している周(ビジー状態)は、ビーコン機能による送信は行いません。したがって、SQLツマミは確実に調整してください。
- ◆自局のコールサインが設定されていないと、ビーコンは送信しません。

ビーコンの送出周期を変えるには

ビーコン機能をオンにすると、初期設定では30秒毎に相手局に自局の情報を送ります。この周期を変更することができます。

- 1 GPS機能がオンのときに、[F]キーを1秒以上押し続け、GPSファンクションモードにする
(表示部の下段のGPSが点滅している時が、GPSファンクションモードです。)

43 1000
自 00km/h 00km/h
点滅

- 2 [MY]キーを押した後、CHツマミを回し表示をG1Loc Eにする
(これで、GPSセットモードになりました。)

43 1000
G1Loc E 30s

- 3 CHツマミを押した後、CHツマミを回し周期を選ぶ
(周期は、0秒から250秒の間で、10秒間隔で設定できます。)

- 4 CHツマミを押し周期を決める

- 5 [MY]キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

- ◆手順3において、周期を0秒にすると、ビーコン機能がオンであってもビーコンは送信されません。

GPSメニューについて

本機のGPS機能を使って、以下の4つを表示することができます。

● 自局情報表示

自分の無線機が設置されている車の、速度／絶対進行方向、緯度／経度、グリッドスクエアロケータ (GL)／高度の表示。および、自局情報源の選択。

● 相手局情報表示

相手局の無線機が設置されている車の、自分の車からの相対的な距離／方向、緯度／経度、グリッドスクエアロケータ (GL)／高度の表示。および、相手局情報源の選択。

● メッセージ・コールサイン表示

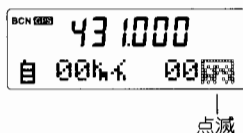
自局のコールサインの設定、相手局のコールサイン表示、自局から送るメッセージの編集、相手局から受信したメッセージの表示。

● 時刻表示

日本標準時の表示。

これらの機能は、以下の手順でGPSメニューを呼び出し、切り換えを行います。

- 1 [F] キーを1秒以上押し続け、GPSファンクションモード (P.54) にする
(表示部の下段のGPSが点滅している時が、GPSファンクションモードです。)



点滅

自局情報表示について

自局情報表示では、次の4つの項目が表示できます。

● 自局の速度・絶対進行方向表示

自分の無線機が設置されている車の、速度を時速で表示します。また、真北を0°として、絶対進行方向を角度と矢印で表示します。

● 自局の緯度・経度表示

自分の無線機が設置されている車の、緯度と経度を表示します。この緯度と経度のデータは、位置メモリーとして5個までメモリーできます。位置メモリーには、メモリーされたときの日時がタグとして登録されます。このタグの内容を変更することができます。

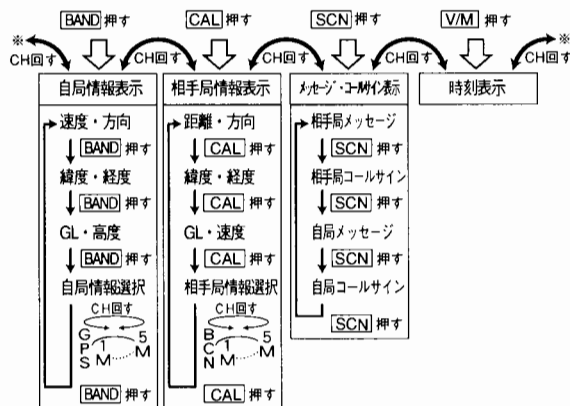
● 自局のグリッドスクエアロケータ・高度表示

自分の無線機が設置されている車の、グリッドスクエアロケータ (GL) と高度を表示します。

● 自局の情報源表示および選択

自局の情報源を衛星からの信号か、位置メモリーが選択できます。この選択された自局の情報源を使って、相手の人に自分の位置を教えたり、相手局からの相対的な位置と距離を知ることができます。

- 2 [BAND]・[CAL]・[SCN]・[VM] キーを押して機能の表示を切り換える



(CHツマミを押しても、各表示内の項目を切り換えることができます。)

- 3 [F] キーを押すか、10秒間キーも押さずに、GPSファンクションモードを終了する

アドバイス

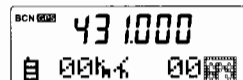
- ◆ 手順1において、キーやCHツマミの操作が10秒間ないとGPSファンクションモードは終了します。
- ◆ 手順1において、3秒間以上[F]キーを押すと上記のGPSファンクションモードの時間制限がなくなります。再度[F]キーを押すとGPSファンクションモードは、解除されます。
- ◆ ハイパーメモリー(HM)に各表示の項目をメモリーできます(P.29)。よくお使いになる表示は、HMにメモリーしておくとう便利です。

これらの表示は、以下の手順で切り換えを行います。

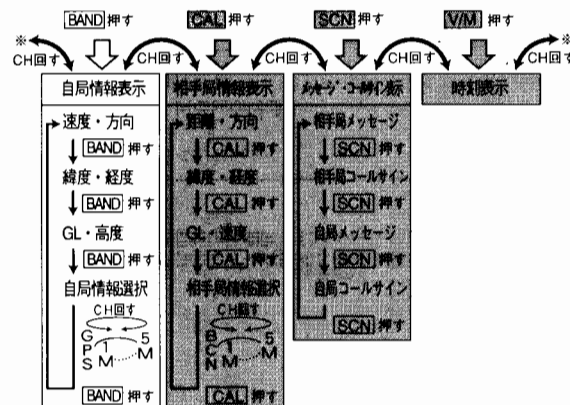
- 1 [F] キーを1秒以上押し続け、GPSファンクションモード (P.54) にする

- 2 GPSファンクションモード中に、[BAND] キーを押す
(CHツマミを回しても、自局情報表示に切り換えられます。)

(自局情報表示の中で、最後に使った項目が表示されます。)



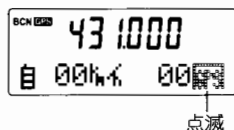
- 3 GPSファンクションモード中に、[BAND] キーを押し、表示を切り換える
(CHツマミを押しても、自局情報表示の項目は切り換えられません。)



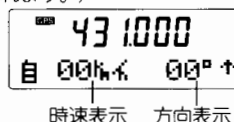
自局の速度および絶対進行方向を表示するには

自局情報表示の機能を使って、自局の速度と絶対進行方向を知ることができます。このときの方向は、真北を0°としています。真北から東側を+の角度で、西側を-の角度で表示しています。また、矢印により概略方向を示します。

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人に合わせる
- 2 GPSファンクションモード(P54)中に、[BAND] キーを数回押し、速度・方向表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる
(速度と絶対進行方向が表示されます。)



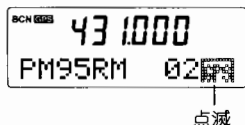
アドバイス

- ◆手順2において、情報源の選択が何もメモリーされていない位置メモリー(P57)に設定されているときは、「ジョウホウゲンナシ」が表示されます。
- ◆信号待ち等で停車中は、正しい方向は表示されません。

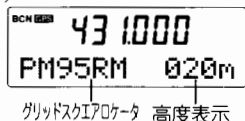
自局のグリッドスクエアロケータおよび高度を表示するには

自局情報表示の機能を使って、自局のグリッドスクエアロケータおよび高度を知ることができます。

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人に合わせる
- 2 GPSファンクションモード(P54)中に、[BAND] キーを数回押し、グリッドスクエアロケータ・高度にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる
(速度と方向が表示されます。)



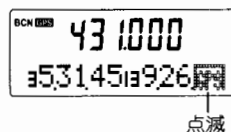
アドバイス

- ◆グリッドスクエアロケータとは、地球上の緯度と経度の線を格子状に分割し、その位置をアルファベットと数字による組み合わせで表示したものです。

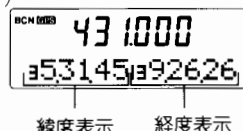
自局の緯度と経度を表示するには

自局情報表示の機能を使って、自局の緯度と経度が表示できます。

- 1 バンドを選び、周波数を呼び出したい人に合わせる
- 2 GPSファンクションモード(P54)中に、[BAND] キーを数回押し、緯度・経度表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる
(緯度と経度が表示されます。)



(この表示の場合、北緯35° 31' 45"、東経139° 26' 26" を表します。)

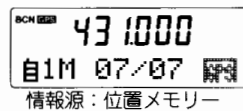
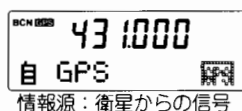
自局の情報源を選択するには

自局から発信する信号の情報源を、衛星から受けている信号または位置メモリーに切り換えられます。位置メモリーとは、衛星から受けた信号の緯度・経度をメモリーしておく専用のメモリーのことで

- 1 GPSファンクションモード(P54)中に、[BAND] キーを数回押し、情報源選択にする



- 2 CHツマミを回し、情報源を選択する



- 3 GPSファンクションモードを終了させる

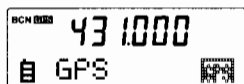
アドバイス

- ◆手順2において、位置メモリーに何もメモリーされていないときは、「ジョウホウゲンナシ」が表示されます。
- ◆手順2において、何もメモリーされていない位置メモリーを選択すると、自局の速度・方向表示のときに「ジョウホウゲンナシ」が表示されます。

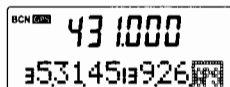
衛星からの信号をメモリーするには（位置メモリー）

衛星から受けた信号の緯度と経度のデータを専用の位置メモリーにメモリーしておくことができます。位置メモリーのメモリーアドレスは1Mから5Mの5個あります。

- 1 GPSファンクションモード(P.54)中に、[BAND] キーを数回押し、情報源選択にし、情報源を衛星からの信号「GPS」にする



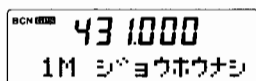
- 2 GPSファンクションモード中に、[BAND] キーを数回押し、緯度・経度表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる

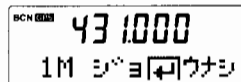
- 4 ファンクションモード中に、[BAND] キーを押す
(位置メモリーのメモリーアドレスが表示されます。)

F



- 5 CHツマミを回しメモリーアドレスを選択する

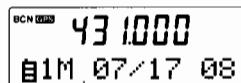
- 6 [F] キーを押し後、[VM] キーを押す
(位置メモリーへメモリーされました。)



- 7 緯度・経度表示に戻ったことを確かめる

アドバイス

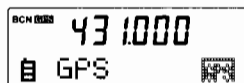
- ◆ 手順1において、情報源は位置メモリーを選択しないでください。位置メモリーが選択されていると、手順4において位置メモリーが表示されず、ブザー音が出ます。
- ◆ 手順4において、位置メモリーに何もメモリーされていないときは、「ショウホウナシ」が表示されます。
- ◆ 表示される位置メモリーは、位置メモリータグ編集 (P.21) がされていないときは、メモリーした時刻(月/日 時刻)が表示されます。メモリーしたときに、時刻のデータが無いときは、1月1日00時が表示されます。



緯度・経度のデータを修正するには

自局の緯度・経度のデータを修正することができます。このデータを位置メモリーとすれば、その場所に行かなくても、任意の位置を位置メモリーにメモリーできます。

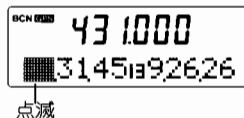
- 1 GPSファンクションモード(P.54)中に自局情報源の選択にて、情報源を衛星からの信号「GPS」にする



- 2 GPSファンクションモードを終了させる

- 3 ファンクションモード中に、[BAND] キーを押す
(緯度の「度」の入力状態になります。)

F



点滅

- 4 CHツマミを回し、「度」を変更し、CHツマミを押し決定する
(緯度の「分」の入力状態になります。)

- 5 手順4を繰り返し、経度の「秒」まで変更する
(経度の「秒」のまで変更すると自動的に変更された緯度・経度メモリーされます。)

アドバイス

- ◆ この操作を行うときは、GPSレシーバーは、本機より外してください。GPSレシーバーが接続されていると、ここで設定した位置データが書き込まれてしまいます。
- ◆ 手順1において、情報源を位置メモリーにしないでください。位置メモリーが選択されていると、手順3において、位置メモリーのタグ編集の動作になります。
- ◆ 手順4において、経度の「秒」までに変更が終わるときは、ファンクションモード中に、[VM] キーを押してください。

相手局情報表示について

相手局情報表示では、次の4つの項目が表示できます。

●相手局の距離・方向表示

自分の無線機と相手局の無線機との距離をkm単位で表示します。また、相対方向を角度と矢印で表示します。

●相手局の緯度・経度表示

相手の人の無線機が設置されている車の、緯度と経度を表示します。この緯度と経度のデータは、位置メモリーとして5個までメモリーできます。位置メモリーには、メモリーされたときの日時タグとして登録されます。このタグの内容を変更することができます。

●相手局のグリッドスクエアロケータ・速度表示

相手の人の無線機が設置されている車の、グリッドスクエアロケータと速度を表示します。

●相手局の情報源表示および選択

相手局の情報源を相手局からのビーコン信号か、位置メモリーか選択できます。この選択された情報源から、相手局からの相対的な位置と距離を知ることができます。

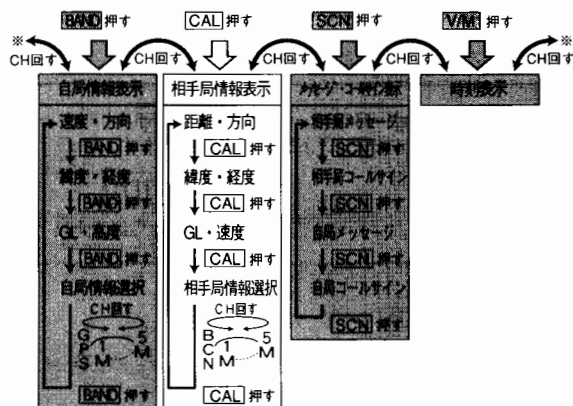
これらの表示は、以下の手順で切り換えを行います。

1 [F] キーを1秒以上押し続け、GPSファンクションモードにする

2 GPSファンクションモード(D54)中に、[CAL] キーを押す (CHツマミを回しても、相手局情報表示に切り換えられます。)



3 GPSファンクションモード中に、[CAL] キーを押し、表示を切り換える (CHツマミを押しても、自局情報表示の項目は切り換えられます。)

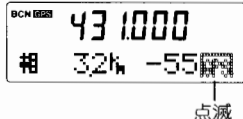


相手局の距離および方向を表示するには

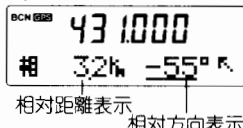
自局情報と相手局表示を使って、自局と相手局間の距離と相対方向を知ることができます。このときの方向は、自分の進行方向を0°としています。自分から右側を+の角度で、左側を-の角度で表示しています。また、矢印により概略方向を示します。

1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる

2 GPSファンクションモード(D54)中に、[CAL] キーを数回押し、距離・方向表示にする



3 GPSファンクションモードを終了させる (距離と方向が表示されます。)



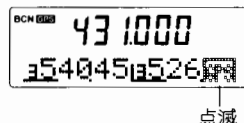
(この表示の場合、自分の進行方向に対して左55°の方向に、直線距離で3.2kmの場所に相手局がいることを表します。)

相手局の緯度と経度を表示するには

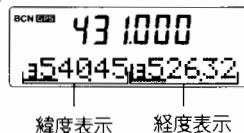
相手局のビーコンを受信することで、相手局の緯度と経度が表示できます。

1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる

2 GPSファンクションモード(D54)中に、[CAL] キーを数回押し、緯度・経度表示にする



3 GPSファンクションモードを終了させる (緯度と経度が表示されます。)



アドバイス

- ◆ 手順2、3において、相手の人からの信号を受けられないときは、「ジョウボウナシ」が表示されます。
- ◆ 手順2、3において、相手の人の位置が100km以上あるときは、「>100km」が表示されます。
- ◆ 自局情報源(D56)が衛星からの信号「GPS」が選択されているときは、相手局の方向は相対方向(下線有り)で表示されます。位置メモリーが選択されているときは、相手局の絶対方向(下線無し)が表示されます。

アドバイス

- ◆ 手順2、3において、相手局の緯度・経度を表示しているときは、それぞれの「度」に下線が表示されます。

相手局のグリッドスクエアロケータおよび速度を表示するには

相手局のグリッドスクエアロケータおよび速度を知ることができます。

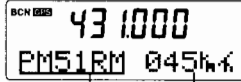
- 1 バンドを選び、相手の人に合わせる

- 2 GPSファンクションモード(P.54)中に、[CAL] キーを数回押し、グリッドスクエアロケータ・速度にする



点滅

- 3 GPSファンクションモードを終了させる
(グリッドスクエアロケータと速度が表示されます。)



グリッドスクエアロケータ 速度表示

アドバイス

- ◆ 手順2、3において、相手局のグリッドスクエアロケータを表示しているときは、グリッドスクエアロケータに下線が表示されます。

相手局の情報源を選択するには

相手局の情報源を、相手局から発信されるビーコンまたは位置メモリーに切り換えられます。この位置メモリーは、自局の位置メモリーと共通です。

- 1 GPSファンクションモード(P.54)中に、[CAL] キーを数回押し、情報源選択にする

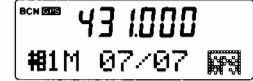


点滅

- 2 CHツマミを回し、情報源を選択する



情報源：相手局からの信号



情報源：位置メモリー

- 3 GPSファンクションモードを終了させる

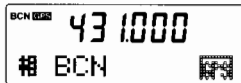
アドバイス

- ◆ 手順2において、位置メモリーに何もメモリーされていないときは、「イチジョウホウナシ」が表示されます。

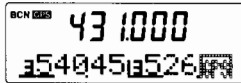
相手局からの信号を位置メモリーにメモリーするには

相手局からビーコンで送られた緯度と経度のデータを専用の位置メモリーにメモリーしておくことができます。

- 1 GPSファンクションモード中に、[CAL] キーを数回押し、情報源選択にし、情報源を相手局(P.54)からのビーコン[BCN]にする

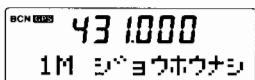


- 2 GPSファンクションモード中に、[BAND] キーを数回押し、相手局の緯度・経度表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる

- 4 ファンクションモード中に、[BAND] キーを押す
(位置メモリーのメモリーアドレスが表示されます。)



- 5 CHツマミを回しメモリーアドレスを選択する

- 6 ファンクションモード(P.54)中に、[V/M] キーを押す
(位置メモリーへメモリーされました。)

- 7 緯度・経度表示に戻ったことを確かめる

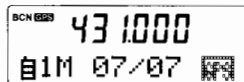
アドバイス

- ◆ 手順1において、情報源は位置メモリーを選択しないでください。位置メモリーが選択されていると、手順4において位置メモリーが表示されず、ブザーが出ます。
- ◆ 手順4において、位置メモリーに何もメモリーされていないときは、「ジョウホウナシ」が表示されます。
- ◆ 手順4において、相手局の緯度・経度データを受信していないときは、ブザーが出て、位置メモリーが表示されません。

位置メモリーのタグを変更するには（位置メモリータグ編集）

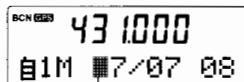
位置メモリーのタグを別の文字に変更できます。位置メモリーが、メモリーされたときは、位置メモリータグとして、メモリーした日時が表示されます。タグは、8桁まで文字は入力できます。使える文字は、アルファベット、カタカナ及び記号の合わせて192種類（スペース含む）です。

- 1 GPSファンクションモード(P54)中に自局情報源(P56)または相手局情報源(P59)を選択し、タグを変更したい位置メモリーを選択する



- 2 GPSファンクションモードを終了させる

- 3 ファンクションモード中に、[BAND] キーを押す（タグの1桁目の入力状態になります。）



カーソル点滅

- 4 CHツマミを回し、文字を選択し、CHツマミを押し決定する（タグの2桁目の入力状態になります。）

- 5 手順4を繰り返し、8桁目まで入力する（8桁目のまで入力すると自動的にタグが入力されます。）

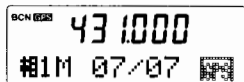
アドバイス

- ◆ 手順1以降において、自局情報源が選択されているときは、「自」が表示されます。相手局情報源が選択されているときは、「相」が表示されます。
- ◆ 手順4において、HMボタンの(1)または(3)を押し、変更したい桁にカーソルを移動できます。また、HMボタンの(2)ボタンを押すと、カーソルの前の桁を消去します。
- ◆ 手順5において、8桁目までに入力を終わるときは、ファンクションモード中に、[VM] キーを押してください。

近距離警報を設定するには

位置メモリーが相手局情報に設定されているとき、近距離警告を鳴らすようにできます。近距離警報は、相手局との距離が900m以内に近付いたときに、モース信号にて位置メモリーの数字を鳴らします。（例：相1Mでは1。）

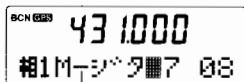
- 1 GPSファンクションモード(P54)中に相手局情報源(P59)を選択し、近距離警報を鳴らしたい位置メモリーを選択する



- 2 GPSファンクションモードを終了させる

- 3 ファンクションモード中に、[BAND] キーを押す

- 4 [BAND] キーを押した後、CHツマミを押す（メモリーアドレスとタグとの間に「-」が表示されます。）



表示

（必要があれば、位置メモリータグ編集を行います。）

- 5 ファンクションモード中に、[VM] キーを押して終了する

アドバイス

- ◆ 手順4において、8桁目までに入力したときは、自動的にタグが変更されます。したがって、手順5は行いません。

メッセージ・コールサイン表示について

ビーコンの機能を使うと、位置情報の他にメッセージとコールサインを送ることができます。メッセージ・コールサイン表示では、次の4つの項目が表示できます。メッセージは半角文字(英数字・カタカナ等)で20文字まで送受信可能です。パソコンと本機を接続することで漢字等の全角文字も送受信できます。全角文字を受信すると、本機の表示部では、意味不明の表示になります。

●相手局のメッセージ表示

相手の人から送られたメッセージを表示します。

●相手局のコールサイン表示

相手の人から送られたコールサインを表示します。

●自局のメッセージ表示

相手の人へ送るメッセージを作成したり、編集します。

●自局のコールサイン表示

相手の人へ送るコールサインを作成したり、編集します。

これらの表示は、以下の手順で切り換えを行います。

- 1 [F] キーを1秒以上押し続け、GPSファンクションモード(P54)にする

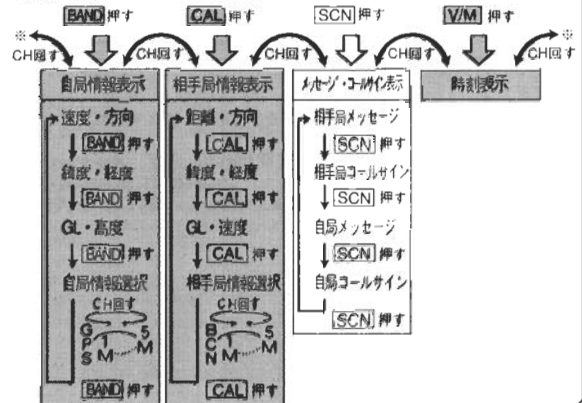
- 2 GPSファンクションモード中に、[SCN]キーを押す

(CHツマミを回しても、メッセージ・コールサイン表示に切り換えられます。)

BCN 002 43 1000
相手局 トウチャク 点滅

(メッセージ・コールサイン表示の中で、最後に使った項目が表示されます。)

- 3 GPSファンクションモード中に、[SCN]キーを押し、表示を切り換える (CHツマミを押しても、メッセージ・コールサイン表示の項目は切り換えられます。)



相手局のメッセージを表示するには

ビーコンにて送られた相手局メッセージを表示します。

- 1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる

- 2 GPSファンクションモード(P54)中に、[SCN]キーを数回押し、相手局のメッセージ表示にする

BCN 002 43 1000
相手局 トウチャク 点滅

- 3 GPSファンクションモードを終了させる

BCN 002 43 1000
相手局 トウチャク 点滅

アドバイス

- ◆ 手順2、3において、相手の人からの信号を受けないときは、「-----」が表示されます。
- ◆ 3において、表示されていない文字があるときは、メッセージの始めには、<<が表示されます。メッセージの終わりには>>が表示されます。HMボタンの(1)または(3)を押して、隠れているメッセージを表示できます。
- ◆ 本機は、全角文字には対応していません。相手局から漢字等の全角文字が送られてきたときは、意味不明の内容が表示されます。

相手局のコールサインを表示するには

受信した相手局のコールサインを表示します。また、相手のコールサインをモールス信号で鳴らし、誰からの着信かを知ることができます。

- 1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる

- 2 GPSファンクションモード(P54)中に、[SCN]キーを数回押し、相手局のコールサイン表示にする

BCN 002 43 1000
相手局 JA1AAA 点滅

- 3 GPSファンクションモードを終了させる

BCN 002 43 1000
相手局 JA1AAA

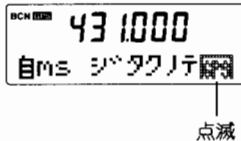
アドバイス

- ◆ 手順2、3において、相手の人からの信号を受けないときは、「-----」が表示されます。
- ◆ 手順2、3において、信号が0~9またはA~Z以外の文字データの場合は、その文字の部分为空欄になります。

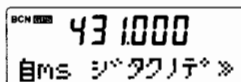
自局のメッセージを表示するには

ビーコンを使って相手局に送信するメッセージを表示します。

- 1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる
- 2 GPSファンクションモード(D54)中に、[SCN]キーを数回押し、自局のメッセージ表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる



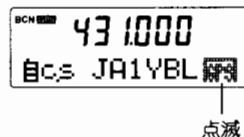
アドバイス

- ◆ 手順2、3において、メッセージを入力していないときは、「-----」が表示されます。
- ◆ 3において、表示されていない文字があるときは、メッセージの始めには、<<が表示されます。メッセージの終わりには>>が表示されます。HMボタンの(1)または(3)を押して、隠れているメッセージを表示できます。

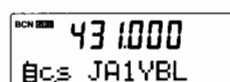
自局のコールサインを表示するには

自局のコールサインを表示します。

- 1 バンドを選び、周波数を相手の人に合わせる
- 2 GPSファンクションモード(D54)中に、[SCN]キーを数回押し、自局のコールサイン表示にする



- 3 GPSファンクションモードを終了させる



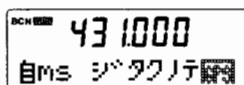
アドバイス

- ◆ 手順2、3において、コールサインを入力していないときは、「-----」が表示されます。
- ◆ 自局のコールサインを入力していないときは、ビーコン機能がオンであっても、ビーコンの動きはしません。

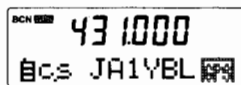
自局のメッセージ・コールサインを入力・編集するには

自局のメッセージやコールサインを入力したり修正して、変更できます。

- 1 GPSファンクションモード(D54)中に、[SCN]キーを数回押し、自局のメッセージ表示またはコールサイン表示にする



(自局メッセージ編集)



(自局コールサイン編集)

- 2 GPSファンクションモードを終了させる

- 3 ファンクションモード中に、[BAND]キーを押す
(1桁目が入力待ちの状態になります。)



- 4 CHツマミを回し、文字を選択し、CHツマミを押し決定する
(2桁目の入力状態になります。)

- 5 手順4を繰り返し、最後の桁まで入力する
(最後の桁が入力されると自動的に編集が終了します。)

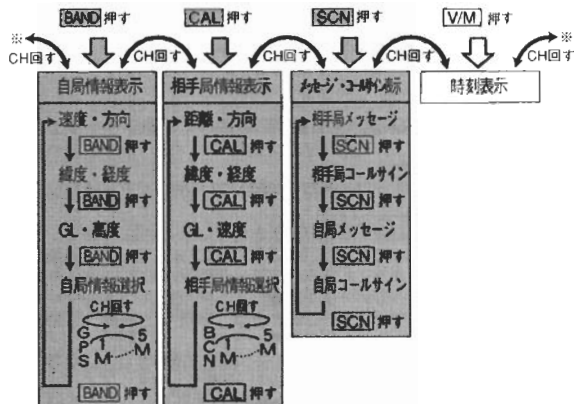
アドバイス

- ◆ 手順1において、文字が入力されていないときは、「-----」が表示されます。
- ◆ 手順4において、HMボタンの(1)または(3)を押して、変更したい桁にカーソルを移動できます。また、HMボタンの(2)ボタンを押すと、カーソルの前の桁を消去します。
- ◆ 手順4において、コールサインを入力するときは、0~9、A~Z、そして10、11、12、13、14、15の文字データのみ使えます。
- ◆ 手順5において、コールサインを初めて入力するときは、7桁目まで入力してください。7桁目に入力する文字が無いときは「[空欄]」を入力してください。7桁目を入力しないとこの設定を終了できません。また、2文字コールサインのときは、6から7桁目に「[空欄]」を入力してください。
- ◆ 手順5において、最後の桁までに入力する前に終わるときは、ファンクションモード中に、[V/M]キーを押してください。ただし、コールサインは7桁目が入力されていないときは、この動作で入力を終わらせることはできません。
- ◆ GPS機能がオンのときは、ここで設定されたコールサインが電源を入れたときに表示されます。コールサインを入力していないときは、「NO CALL」が表示されます。

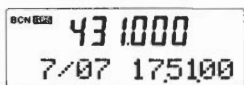
時刻を表示するには

日本標準時と月日が表示されます。時刻は24時間表示で、秒まで表示されます。

- 1 GPSファンクションモード(D54)中に、[V/M]キーを押す
(CHツマミを回しても、時刻表示に切り換えられます。)



- 2 時刻が表示されることを確かめる



(この表示の場合、7月7日17時51分00秒を表します。)

アドバイス

- ◆手順1において、衛星からの時刻データが受信できないときは、「ジ
コクジョウホウナシ」が表示されます。

GPSをグループで使うには

GPSグループコードを設定すると、グループ以外の人からのビーコンを受信しないようにできます。

- 1 GPSファンクションモード(D54)にする

- 2 [MY]キーを押した後、CHツマミを回し表示をG0 Groupにする



- 3 CHツマミを押す
(1桁目が入力待ちになります。)



- 4 CHツマミを回し文字を決め、CHツマミを押す (2桁目が入力待ちになります。)



- 6 手順4を繰り返し、3桁目まで入力する

- 7 [BAND]キーを押す
(Groupとグループコードの間に「-」が表示されます。)



- 8 [MY]キーを押し、終了する

アドバイス

- ◆手順4において、GPSグループコードに設定できる文字は、0～9、
A～Zです。
◆手順7の「-」が設定されていないと、GPSグループコードが設定さ
れていても、相手局からのビーコンをすべて受信します。
◆パソコンからコマンドで入力(D64)した場合は、「-」は設定されま
せん。

パソコンと接続するには

本機とGPSレシーバーを接続し、さらにオプションのシリアルケーブルDCA575を使って本機とパソコンを接続します。これらの接続により、市販の電子地図ソフトを使ったナビゲーションが使えます。電子地図ソフトは、パソコンGPSに対応しているものをご購入ください。

- 1 シリアルケーブルのコネクターと本機を接続する
(シリアルケーブルと本機を接続する前には、必ず本機とパソコンの電源を切ってください。)

- 2 シリアルケーブルとパソコンを接続する
(接続の際には、パソコンの取扱説明書をよくお読みください。)

- 3 本機とパソコンの電源を入れる

- 4 セットモード (D21)にて、セットモード番号を 31 にし、表示をPC BUFFERにする

BCN 43 1000
31PC BUFFER

- 5 通信ソフトの設定を以下のようにする
9600bps、8ビット、ノンパリティ、ストップビット1、フロー制御無し

- 6 本機の電源を一度切り、電源を再度入れ、下記の表示が出ることを確認する
STANDARD C5750
cmd:

- 7 コマンドの設定がパソコンから行なえるようになったことを確認する

アドバイス

- ◆ 通信ソフトは、パソコンGPS通信に対応しているフリーウェアやシェアウェアのソフトをパソコン通信やインターネットからダウンロードしてください。
- ◆ 必要があれば、通信ソフトと電子地図ソフトを結ぶアドオンソフト等をインストールしてください。
- ◆ 手順4において、「BUFFER」が表示されているときは、GPSレシーバーからのデータを本機にて、NMEA0183フォーマットに変換し、パソコンに出力します。「THROUGH」が表示されているときは、GPSレシーバーからのデータを本機にて、IPS5000フォーマットのままパソコンに出力します。このときは、GPSレシーバーに対してコマンドを出力することもできます。
- ◆ 手順5において、本機にはエコーバック機能がありません。必要なときは、通信ソフトのローカルエコーバック機能を利用してください。
- ◆ 手順6において、C5750 STANDARDが表示されなかったり、文字が化けるときはケーブルの接続や通信ソフトの設定を点検してください。
- ◆ 初期設定では、GPS575はWGS84 測地系に設定されています。この設定を東京測地系に変更することができます。セットモード31にて、表示を「BUFFER」から「THROUGH」にします。通信ソフトを使用して「@SKB」と入力してください。WGS84 測地系に戻すときは、「@SKA」と入力してください。

コマンドの説明

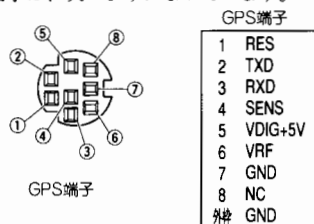
コマンド名	省略名	初期値	動作内容
MYCALL	MY	NOCALL	ビーコン送信時に送る自局のコールサイン。6桁の英数字の後に、-1〜-15が付加できます。2桁コールのときは、6桁目にスペースを入れてください。(太文字で入力してください。) 例: cmd:MYCALL JA1YBL-3
LOCATION	LOC	EVERY 3	ビーコンの送出周期の設定です。数字1について10秒の設定です。0〜25まで設定できます。0を選択すると、ビーコンは送出されません。 例: cmd:LOCATION E 10 (100秒毎)
NTSGRP	—	000	\$PTNSセンテンスのグループコード。使用可能文字は0〜9、A〜Zです。GPSセットモードにて、同グループ内でのデータのみ受信するように設定できます (D63)。 例: cmd:NTSGRP A75
NTSMRK	—	\$00	\$PTNSセンテンスのマーク情報コード。相手局の電子地図上に表示される自局位置マークの種類を選択できます。本機だけで表示するときは、設定の必要はありません。 例: cmd:NTSMRK \$02 \$00〜\$0E (16進数) または0〜14 (10進数)
NTSMMSG	—	—	メッセージ文字入力。1バイト文字で20文字まで入力可能。2バイト文字も入力できますが、本機だけでは表示できません。 例: cmd:NTSMMSG 1234
LTEXT	LT	—	緯度・経度、時刻、メッセージ等が格納されているデータフォーマット\$PNTSセンテンスの内容表示および書き込みを行います。ただし書き込みのときは、緯度・経度情報のみ。

アドバイス

- ◆ LAPATHは、GPSにのみ対応しています。VIA(デジピーター)には対応していません。
- ◆ LOCATION、NTSGRPは、GPSセットモードでも設定ができます。(D54、63)
- ◆ 本機のTNC機能にはパケット通信の機能は含まれていません。
- ◆ パソコンからNTSGRPを入力しただけでは、すべてのグループを受信してしまいます。受信するグループを選択するには、「GPSをグループで使うには (D63)」をご覧ください。

GPS端子・SER(シリアル)端子について

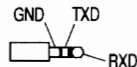
GPS端子は、次のようになっています。



注意

- ◆ 5番ピンには電圧が出力されているので、絶対に他の端子とショートさせないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ◆ GPSレシーバーGPS575以外のGPSレシーバーを接続した場合、これが原因で本機および本機に接続されている機器が、故障・破損することがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となる場合があります。

SER(シリアル)端子の配線は、次のようになっています。



注意

- ◆ シリアルケーブルDCA575以外のシリアルケーブルを接続した場合、これが原因で本機および本機に接続されている機器が、故障・破損することがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となる場合があります。

オプションを使って

リモコンマイクCMP575Dを使って（ダイレクト入力）	66
パワーブースターCPB510/CPB510Dを使って	66
スピーカーを切り換えるには	66



リモコンマイクCMP575Dを使って（ダイレクト入力）

数字キーを使って、周波数を直接入力することができます。

周波数のダイレクト入力には、

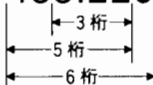
● 3桁入力（1MHz台から10kHz台）

● 5桁入力（100MHz台から10kHz台）

● 6桁入力（100MHz台から1kHz台）

の3種類とオートがあり、初期状態ではオートが設定されています。オートでは周波数ステップの1kHz台が0に設定（例：10kHz）されていると5桁入力になります。

433.220



■ 3桁、5桁または6桁入力するには

1 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 02 にする **F**

433000
02Direct オート

2 CHツマミを押し、表示を変える

オート → 3ヶタ → 5ヶタ → 6ヶタ

3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

◆ 5桁または6桁入力に設定すると、100MHz台からの入力が行えるので、バンドの移動が簡単に行えます。

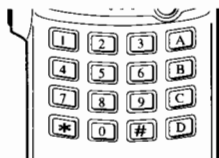
◆ 入力できないキーを押すと、ブツ音がします。

◆ 送信中に16キーを押すと、DTMF信号を送出することができます。

■ 周波数をダイレクト入力するには

1 バンドを選び、VFO状態にする

2 入力する数字のキーを、100MHz台から入力する



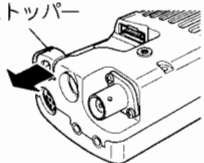
パワーブースターCPB510/CPB510Dを使って

オプションのパワーブースターを使って、送信出力を上げることができます。

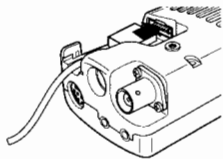
1 取り付けを行う前に、本機とパワーブースターの電源を切る

2 本機のストッパーを外す

ストッパー



3 パワーブースターのコネクタと本機のインターフェイスジャックを接続する



4 手順1で外したストッパーを取り付ける

アドバイス

◆ パワーブースターを取り付けたときの、送信出力は以下のようになります。

	CPB510		CPB510D	
設定	VHFバンド	UHFバンド	VHFバンド	UHFバンド
LOW/VAR	約5W	約5W	約5W	約5W
HI	約20W	約20W	約50W	約35W

パワーブースターを取り付けたときは、送信出力の設定でVARを選択していても、LOWと同じ設定になります。

スピーカーを切り換えるには

パワーブースターには、外部スピーカーの端子があります。この端子にオプションの外部スピーカーを接続することができます。初期状態では、本機のスピーカーからも音が出るように設定されています。この設定を変えることで、外部スピーカーのみ音声を出力するようにできます。

1 セットモード (P21) にて、セットモード番号を 32 にする

433200
32 スピーカ on

2 CHツマミを押し、表示をonからoffにする

433200
32 スピーカ off

3 **[MY]** キーを押し、VFO状態に戻る

アドバイス

◆ 手順2において、設定をoffにしても、パワーブースターが接続されていないと、この機能は有効になりません。

ご参考に

故障とお考えになるまえに	68
セットモード機能の一覧	69
ファンクションモードのタグ一覧	70
欧文モールス信号の一覧	70
オプションの紹介	71
アフターサービスについて	71
定 格	72
申請書の書きかた	73
送信機系統図	74
申請書の書き方（パワーブースターCPB510/Dを使うとき）	75
さくいん	77

故障とお考えになるまえに

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。

下記の項目をチェックしてもなおらない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

■ 電源が入らない

- ヒューズの確認
- 電源コードの抜け

■ 表示部が暗い

- ディマー機能が暗く設定されている

■ 強い信号しか受信しない

- アンテナの整合が悪い
- アンテナが外れている、緩んでいる
- SQL ツマミが時計方向に回し切っている
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる
- RF スケルチ機能が on に設定されている

■ スケルチが閉じない（ザーという音が出る）

- SQL ツマミが反時計方向に回し切っている
- リモコンマイクによってスケルチオフになっている

■ キーやセレクトを操作しても受け付けない

- キーロック機能が設定されている

■ 信号を受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる

■ 受信音が出ない

- SQL ツマミを時計方向に回し過ぎている
- 外部スピーカーの接続を確認する
- 音量ツマミの位置を確認する
- ページングモード、またはコードスケルチモードになっている
- トーンスケルチ動作中は、トーン周波数が一致しないと、受信音が聞こえません
- DCS 動作中は、DCS コードが一致しないと、受信音が聞こえません
- RF スケルチ機能が on に設定されている

■ 受信音がい小さい

- 音量ツマミの位置を確認する

■ 送信出力が少ない

- アンテナとの整合が悪い
- ローパワーに設定されている
- アンテナが外れている、緩んでいる
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる

■ 表示部に OFF が表示される

- シフトした周波数がアマチュアバンド外になっている

■ メモリーの書き込みができない

- すべてのメモリアドレスに書き込まれている

■ スキャンしない

- SQL ツマミが反時計方向に回し切っている
- スケルチオフになっている

■ メモリースキャンしない

- メモリーに1つも書き込まれていない
- プログラムメモリースキャンで、指定した範囲内に1つもメモリーされていない

■ プログラムスキャンしない

- スキャンを始める周波数と終わる周波数が設定されていない

■ 自動的に - が表示される

- 439MHz台で、オートレピータ機能が働いている

■ 自動的に +、- 表示が消える

- レピータ周波数(439MHz台)以外になると、自動的に +、- を解除します

■ レピータ局をアクセスできない

- トーン周波数が異なっている
- レピータ局との距離が遠い
- オフセット周波数が異なっている
- シフト方向が + になっている
- レピータ局が動作していない

■ ページング、コードスケルチが動作しない

- 相手局とコードが一致していない
- グループコードが設定されていない
- 相手局または自局の電波が届かない

■ DCS が動作しない

- 相手局とDCS コードが一致していない
- 相手局との距離が遠い

■ 表示部に E が表示される

- 相手局のコードを正しく受信できなかった

■ トーンスケルチが動作しない

- 相手局と離れすぎている
- 相手局とトーン周波数が異なっている

■ GPSが動作しない

- GPS レシーバーが外れている、緩んでいる
- 「GPS キノウ」が on になっていない。
- 上方の視界が悪く、衛星からの信号を充分受信できていない

セットモード機能の一覧

C5750 SET MODE		★：マイキー登録可能 □：無線機で共通 B：バンド別に登録可能 A：すべてのVFO、CALL、メモリー別に登録可能 H：HMメモリー別に登録可能	
初期表示		機 能	
00 Step 20k	★	周波数ステップの選択 (P.23)	B
01 F-Step 1M	★	周波数ステップの1MHz/100kHzの切り換え (P.23)	□
02 Direct オート	★	ダイレクト入力時の桁数選択 (P.66)	□
03 RPT off	★	手動でのレピータモード設定 (P.38)	A
04 Signal off	★	トーンスケルチ/DCSの設定 (P.51)	A
05 TONE 885		トーン周波数の設定 (P.51)	A
06 DCS 023		DCSコードの設定 (P.52)	A
07 Off 500000		オフセット周波数の設定 (P.39)	A
08 Split off	★	スプリットモードの設定 (P.40)	A
09 Paging off	★	ページング/コードスケルチの設定 (P.47)	A
10 Pag C0-000		ページング・コードスケルチ用のコード設定 (P.46)	A*
11 Pag*In 250	★	ページング・コードスケルチの送出時間設定 (P.48)	□
12 Power HI	★	送信出力の設定 (P.24)	B
13 バウジ TAG	★	表示の切り換え (P.43)	H
14 PTT Lock off	★	PTTロックの設定/解除 (P.42)	□
15 APO off	★	オートパワーオフ機能の設定 (P.43)	□
16 TOT off	★	タイムアウトタイマー機能の設定 (P.43)	□
17 Key Lock off	★	キーロック機能の設定/解除 (P.22)	□
18 Beep 2	★	ピープ音量の設定 (P.43)	□
19 Lamp 2	★	表示部ランプの設定 (P.42)	□
20 RF-SQL off	★	RFスケルチの設定 (P.42)	□
21 Band on	★	バンド区分の設定/解除 (P.42)	□
22 MSM off	★	メモリスキャンメモリーの設定 (P.36)	A
23 Mクリア		メモリーの消去 (P.28)	□
24 Scan PAUSE	★	スキャンタイプの選択 (P.33)	H
25 Scan Sp HI	★	スキャンスピードの切り換え (P.33)	□
26 Mblk off	★	ブロックメモリスキャンの設定/解除 (P.35)	□
27 オートRPT on	★	オートレピータモードの設定/解除 (P.38)	□
28 TXメータ PWR	★	TXメータ/モジュレーションメータの切り換え (P.44)	□
29 GPSキノウ	★	GPS機能の設定/解除 (P.54)	H
30 Beacon off	★	ビーコン機能の設定/解除 (P.54)	H
31 PC BUFFER	★	PCインターフェイスの切り換え (P.64)	H
32 スピーカ on	★	内蔵スピーカーのオン/オフ選択 (P.66)	□

A*：（但し、ページング・コードスケルチ用のコードは無線機で共通、アドレスはすべてのVFO、CALL、メモリー別に登録可能です。）

ファンクションモードのタグ一覧

	機 能		機 能
	バンドの切り換え		メモリー周波数のままVFO状態に戻る
	タグ編集の呼び出し		各スキャンの開始または終了
	キー無効		変更または設定した内容の決定
	DTMFメモリーの呼び出し		表示されている周波数を一時的に変更
	コール周波数の呼び出し		VFO 状態に戻る
	コール周波数へのメモリー周波数書き込み		セットモードの呼び出し
	オールスキャンの開始		GPSモード時、編集可能な操作
	プログラムスキャンの開始または設定		

欧文モールス信号の一覧

A	— — — —	S	— — — —
B	— — — — —	T	— — —
C	— — — — —	U	— — — — —
D	— — — —	V	— — — — —
E	—	W	— — — — —
F	— — — — —	X	— — — — —
G	— — — — —	Y	— — — — —
H	— — — — —	Z	— — — — —
I	— —	1	— — — — —
J	— — — — —	2	— — — — —
K	— — — — —	3	— — — — —
L	— — — — —	4	— — — — —
M	— — — — —	5	— — — — —
N	— — — — —	6	— — — — —
O	— — — — —	7	— — — — —
P	— — — — —	8	— — — — —
Q	— — — — —	9	— — — — —
R	— — — — —	0	— — — — —

オプションの紹介

CMP575D	16キー付きリモコンマイク
GPS575	GPSレシーバー
DCA575	シリアルケーブル
CPB510	パワーブースター(20W)
CPB510D	パワーブースター(VHF 50W/UHF 35W)
CSK15	外部スピーカー
CAW590	デュアルマイクケーブル
CAW575	パワーブースター用延長電源ケーブル(長さ 5 m)
CAW576	パワーブースター用中継電源ケーブル(長さ 3 m)

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または当社営業所、当社サービスセンターにご相談ください。

定 格

■一般仕様

周波数範囲	144.000 ~ 145.995 MHz 430.000 ~ 439.995 MHz
電波形式	F2、F3
定格電圧	DC 13.8 V ± 15 % DC 8.4V (CPB510接続時)
消費電流	
VHFバンド 送信時	Hi 約 1.6 A Var ... 約 0.5 A~1.6 A 約 1.2A (初期値: 3W時) Low 約 0.5 A
UHFバンド 送信時	Hi 約 1.8 A Var ... 約 0.5 A~1.8 A 約 1.2A (初期値: 3W時) Low 約 0.5 A
待ち受け時	約 0.35 A
マイクロホン入力インピーダンス	600 Ω
スピーカー出力インピーダンス	4 Ω
空中線インピーダンス	50 Ω
使用温度範囲	- 20 °C ~ + 60 °C
周波数安定度	± 7 ppm (-10 °C ~ + 60 °C)
アンテナコネクター	BNC型
接地方式	マイナス接地
本体寸法(突起物は除く)	140 × 55 × 40 mm (幅 × 高さ × 奥行き)
質 量	約 360 g (キャリングハンドル含む)

■受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	1st IF 23.05 MHz 2nd IF 450 kHz
受信感度	約 - 10 dB μ (-16 dB μ SINAD : JAIA測定法)
選択度	12 kHz以上 (- 6 dB) 24 kHz以下 (-60dB)
スケルチ開放感度	- 12dB μ 以下 (- 18dB μ : JAIA測定法)
低周波出力	約 3.0 W (4 Ω、10%歪時)
0.5 μV入力時S/N比	26 dB以上

■送信部

送信出力	
VHFバンド	Hi 7 W Var 0.3~7 W (初期値: 約 3W) Low 0.3 W
UHFバンド	Hi 6 W Var 0.3~6 W (初期値: 約 3W) Low 0.3 W
変調方式	リアクタンス変調
最大周波数偏移	± 5 kHz
スプリアス発射強度	- 60 dB以下

●本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

申請書の書きかた

本機は、JARLの技術基準適合機です。「アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書発行願・保証認定願」および「工事設計書」に技術基準適合証明番号を記載することで、送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲、変調の方式、定格出力および終段管の記入を省略できます。

		C5750	
①	技術基準適合証明番号	□□□□□□□□□□	
②	発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F 2 { 144MHz帯 F 3 { 430MHz帯	
	変調の方式	リアクタンス変調	
	定格出力	144MHz帯 7 W 430MHz帯 6 W	
	終 段 管	名称個数 144MHz帯 M67798LA 430MHz帯 M67799MA 電 圧 144MHz帯 13.3 V 430MHz帯 13.3 V	
③	送信空中線の型式		
	その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している	

◆ 詳しくは、申請書に付属している「申請書の書き方」をご覧ください。

① 技術基準適合証明番号は、本機の底面に貼られている技適証明ラベルの番号です。

技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技術基準適合証明書発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。

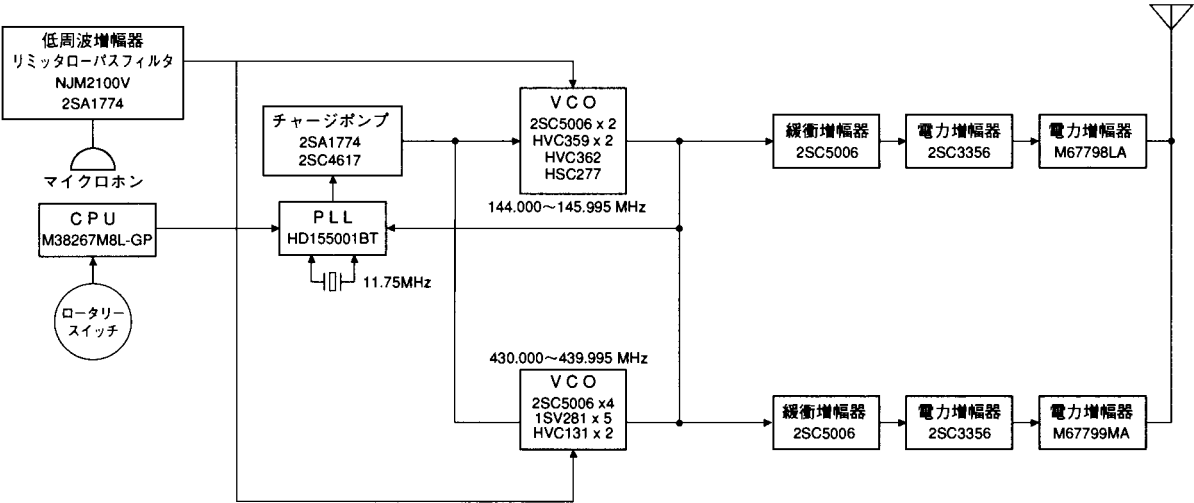
② 保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。

保証認定が必要な場合は、次の通りです。

1. JARL登録送信機およびその改造機
2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
3. 技適証明送信機に付属装置(TNC装置、FAX装置、RTTY装置など)、トランスバータまたはブースター等を付加した送信機
4. 自作した送信機

③ 使用する送信空中線(アンテナ)の型式を記入してください。

送信機系統図



申請書の書き方（パワーブースターCPB510/Dを使うとき）

本機にパワーブースターCPB510またはCPB510Dを組み合わせて、免許を申請するときは、付加装置が追加されたことになります。したがって、免許の申請は「保証認定願」になります。「技術基準適合証明発行願」では、申請できませんのでご注意ください。記入例に従って「保証認定願」、「工事設計書」および送信機系統図を作成して、申請してください。

例 1

保証認定願の「使用するトランシーバー（送信装置）」の欄は下表を例にしてご記入ください。

送信機番号	送信機の型名等	接続するブースターの型名等	付属装置
第1送信機	C5750	CPB510	有
第2送信機	C5750	CPB510D	有
第3送信機			有
第4送信機			有

例 2

工事設計書の「希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式」の欄は、下表を例にしてご記入ください。

希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式				
周波数帯	空中線電力	電波の型式		
144M	20(50)	F2, F3	,	
430M	20(50)	F2, F3	,	
			,	
			,	
			,	

() 内の数字は、CPB510Dを使用した場合です。

例 3

工事設計書の「送信機」の欄は、下表を例にしてご記入ください。

		CPB510の場合	CPB510Dの場合	
①	技術基準適合証明番号	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	
②	発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F2 { 144MHz帯 F3 { 430MHz帯	F2 { 144MHz帯 F3 { 430MHz帯	
	変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調	
	定格出力	C5750 { V 7.0W U 6.0W CPB510 20.0W	C5750 { V 7.0W U 6.0W CPB510D { V 50.0W U 35.0W	
	終段管 名称個数	C5750-V M67798LA x1 C5750-U M67799MA x1 CPB510-V M68750 x1 CPB510-U M68751R x1	C5750-V M67798LA x1 C5750-U M67799MA x1 CPB510D-V S-AV17 x1 CPB510D-U M57788MR x1	
	電圧	C5750-V,U 13.3V CPB510-V 13.4V CPB510-U 13.2V	C5750-V,U 13.3V CPB510D-V 12.8V CPB510D-U 13.2V	
③	送信空中線の型式	単一型		周波数測定装置
	その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している		④ 添付図面 ☐ 送信機系統図

① 無線機の技術基準適合証明番号は、無線機に貼られている技適証明ラベルの番号です。

② 例に従ってこれらの項目を記入してください。

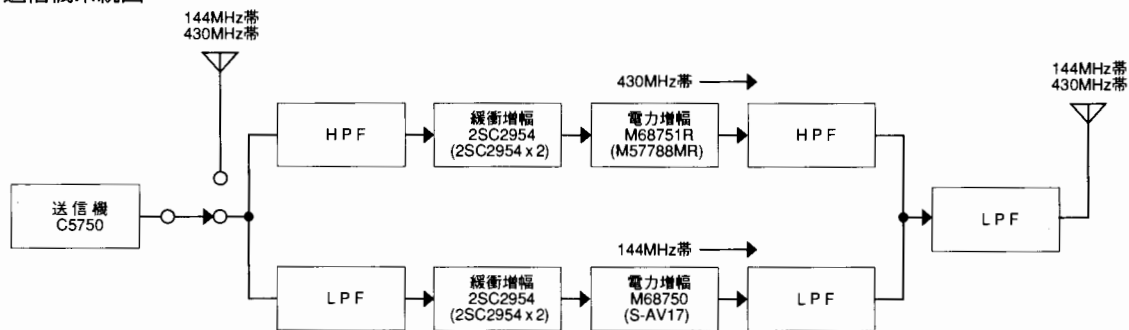
③ 使用する送信空中線（アンテナ）の型式を記入してください。

④ JARD経由で申請する場合、送信機系統図の☑印は必要ありません。（但し、送信機系統図の提出は必要です。）

申請書の書き方（パワーブースターCPB510/Dを使うとき） つづき

例 4

送信機系統図



() 内の数字は、CPB510Dを使用した場合です。

さくいん

1 MHzスキャン	33	PTTロック	42	スケルチオフ	12, 21
APO	43	RF-SQL	42	スプリットモード	40
B	33	RFスケルチ	42	セットモード	21, 69
Band	42	Scan	33	設置	5
Beacon	54	ScanSp	33	送信	14
Beep	43	Split	40	送信機系統図	74
BUSY	33	Step	23	送信出力	24
CALL	20	TXメーター	44	タイムアウトタイマー	43
CHツマミ	14	T	51	ダイレクト入力	66
CP	47	TAG	28	電源	6
CPB510	66	TONE	39, 51	トーンエンコーダー	51
		TOT	43	トーン周波数	51
		TSQ	51	トーンスケルチ	51
				トーンスケルチスキャン	36
DCS	51	V	24		
DCSコード	52	VAR	24	ハイパーメモリー	29
DCSスキャン	36	VFO状態	13	ハイパーメモリー+VFOリセット	15
DT	49	VFOリセット	15	ハイパワー	24
DTMF	49			バンド区分	42
F	III	アンテナ	8	バンドスコープ	44
		相手局情報	58	ビーコン	54
GPS	53	相手局の情報源	59	ビーブ音	43
GPSキノウ	54	位置メモリー	57	ビジースキャン	33
GPSセットモード	54	位置メモリータグ編集	60	表示部の明るさ	42
GPS端子	64	緯度・経度	56	ファンクションモード	15
GPSファンクションモード	54	オートパワーオフ	43	プログラムスキャン	34
GPSメニュー	55	オートレピータ	38	ブロック	35
GPSリセット	15	オールスキャン	33	ブロックメモリースキャン	35
GPSレシーバー	54	オールリセット	15	ページング	47
		オプション	65	ポーズスキャン	33
		オフセット周波数	39	ホールドスキャン	33
H	33	音量	12		
HOLD	33			マイキー	22
HM	29	外部スピーカー	7	メモリー	25
		キーロック	22	メモリアドレス	26
L	24	近距離警報	60	メモリースキャン	35
Lamp	42	グループコード	47	メモリースキャンメモリー	36
LOW	24	グリッドスクエアロケータ	56	メモリータグ	28
		コードスケルチ	48	メモリーリセット	15
M	27	コールサイン表示	61	モジュレーションメータ	44
MbIk	35	コール周波数	20		
MSM	36	個別コード	46	呼出周波数	20
Mクリア	28				
		自局情報	55	リセットモード	15
P	III	自局の情報源	56	リバース	39
PAG	47	時刻表示	63	リモコンマイク	18
Pag	46	周波数ステップ	23	レピータ	37
Paging	48	受信	14	レピータモード	38
PAUSE	33	申請書	73	ローパワー	24
PC BUFFER	64	シンプレックス	38		
Power	24	スキャン	31		
PS	34	スキャンスピード	33		
PTT	18	スケルチ	12		

日本マランツ株式会社

本 社 〒228-8505 神奈川県相模原市相模大野 7 丁目 35 番 1 号
営業本部 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1 丁目 11 番 9 号

お問い合わせは

最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。